第３章

指導・支援

「指導・支援」の活用に当たって

１．個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成してみよう

２．学級経営を見直そう

３．指導の過程の振り返りと改善の方向について考えよう

４．「指導・支援」のまとめ

法令・参考資料

研修を進めるために　園内研修進行のポイント

指導・支援　ワーク一覧

1．個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成してみよう

（1）個別の教育支援計画

【ワーク1】各教育委員会からの情報を整理してみよう（個別 30 分）

【ワーク2】ワーク 1 の情報を園内研修で話し合ってみよう（園全体 30 分）

【ワーク3】学んだことについて、みんなで話し合ってまとめておこう（園全体 30 分）

【ワーク4】各園の個別の教育支援計画を作成するに当たっての課題について話し合おう（園全体 30 分）

【ワーク5】事例の子供のフェースシートを作ろう（特別支援教育コーディネーター作成）

【ワーク6】個別の教育支援計画を作成してみよう（2、3 人のグループワーク 10 分）

【ワーク7】個別の教育支援計画の作成について学んだ成果をまとめてみよう（園全体 20 分）

（2）個別の指導計画

【ワーク8-a】担任が困っていること、子供が困っていることは何だろう（個別 10 分）

【ワーク8-b】ねらいを立ててみよう（個別 10 分）

【ワーク8-c】運動会における具体的な指導方法・環境の工夫を考えてみよう（個別 20 分）

2．学級経営を見直そう

（1）学級における関係性を考えよう

【ワーク9-a】学級における関係性を考えよう（個別 20 分）

【ワーク9-b】学級における関係性を考えよう（グループワーク 30 分）

（2）今の悩みを出してみよう

【ワーク 10-a】個を見つめてみよう（個別 20 分）

【ワーク 10-b】個を見つめてみよう（グループワーク 30 分）

（3）事例を通して考えよう

【ワーク 11】学級全体での活動が苦手な子供について考えよう（個別またはグループワーク 40 分）

【ワーク 12】言葉や状況を理解することが苦手な子供について考えよう（個別またはグループワーク 40 分）

【ワーク 13】支援員と連携について考えてみよう（個別またはグループワーク 40 分）

（4）学級経営について振り返ってみよう

【ワーク 14】学級経営を見直そう（個別 15 分）

（5）同じ場面を見て考えよう

【ワーク 15】ビデオカンファレンスを通して考えてみよう（グループワーク 60 分）

3．指導の過程の振り返りと改善の方向について考えよう

（1）「子供の“思い”や“困難さ”に寄り添う振り返りシート」

【ワーク 16】「子供の“思い”や“困難さ”に寄り添う振り返りシート」を作成しよう（個別またはグループワーク 60 分）

（2）「週案の記録などからＰＤＣＡを考えよう」

【ワーク 17】週案の記録などからＰＤＣＡを考えよう（個別 40 分）

「指導・支援」の活用に当たって

・「指導・支援」の目的

本章は、障害のある子供などの指導における計画の作成について学びます。具体的には、作成の留意事項とその評価です。また、それに関連して、学級経営や保育の省察の在り方を学びます。

次に、本章は以下の４つの内容から構成されています。知識・理解を深めるとともにワークによって自分の指導を分析したり他の教職員と意見を交わしたりすることで、それぞれの内容が関連し、教職員一人一人の子供を理解する力や特別な支援を必要とする子供への指導を実践する力の向上を考えました。

・個別の教育支援計画作成の意義を理解する

特別な配慮が必要な子供の保育をするときに、文部科学省からの事務連絡である「個別の教育支援計画の参考様式について（mext.go.jp）」において個別の教育支援計画の趣旨や役割を理解するとともに各教育委員会から出されてきた特別支援教育に関わる資料を活用して知識や理解を深めていきます。その後、ワークを通して自園の個別の教育支援計画の作成について具体的に考えていきます。

・個別の指導計画について理解を深め、指導の充実を目指す

障害のある幼児一人一人に対する個別の指導計画の目的や意味について理解を深め、作成の目的や流れを確認します。さらに、事例から具体的な書き方やポイントを知り、個別の指導計画の作成についてワークを通して取り組み、指導内容や指導方法を明確にして子供一人一人への対応の充実を図ることを目指します。

・一人一人を生かす学級経営の在り方を考える

学級経営の視点から、ワークを中心に、あなたの学級の様子や悩みを整理することで解決の糸口を見付けていきます。また、事例を通して状況を客観的に読み解きながら、なぜなのか、どうしたらよいのか、解決のためにはどのようなアイディアがあるか、いろいろな考えを出し合って一人一人の指導の充実と学級経営について考えていきます。

・指導の過程の振り返りからその子らしさを見付け指導の改善に繋げる

子供の思いや視点に立って理解を深め、指導の過程を「振り返りシート」を使って振り返り、指導の改善の方向を明らかにしていきます。また、PDCA サイクルを通して日常の支援の内容を捉えることによって、実態に即した支援の改善の方向についても考えていきます。

第 3 章

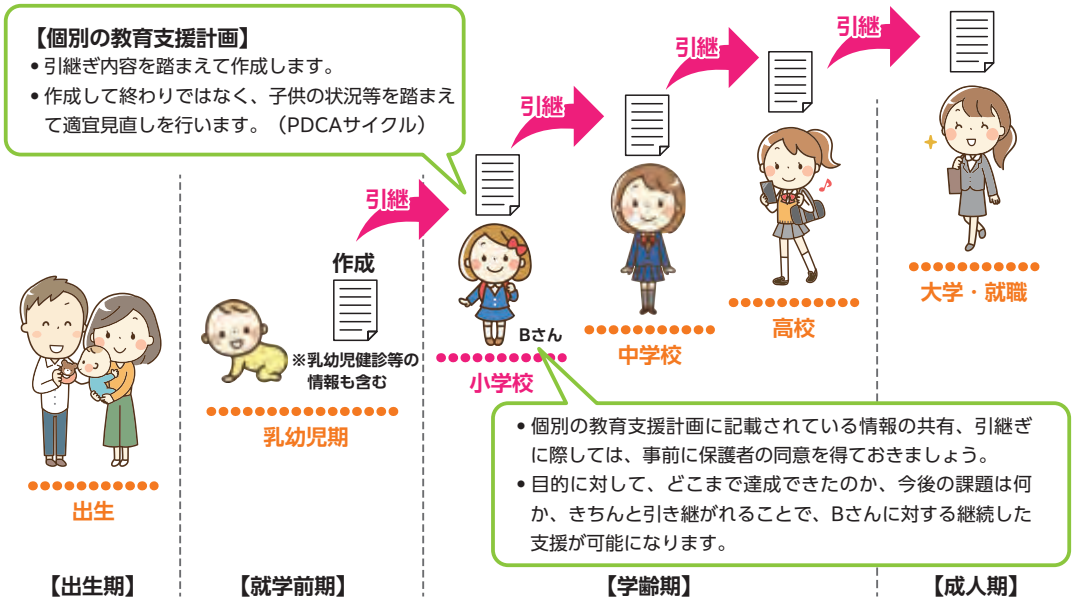
指 導 ・ 支 援

1．個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成してみよう

個別の教育支援計画と個別の指導計画との関係を確認します。

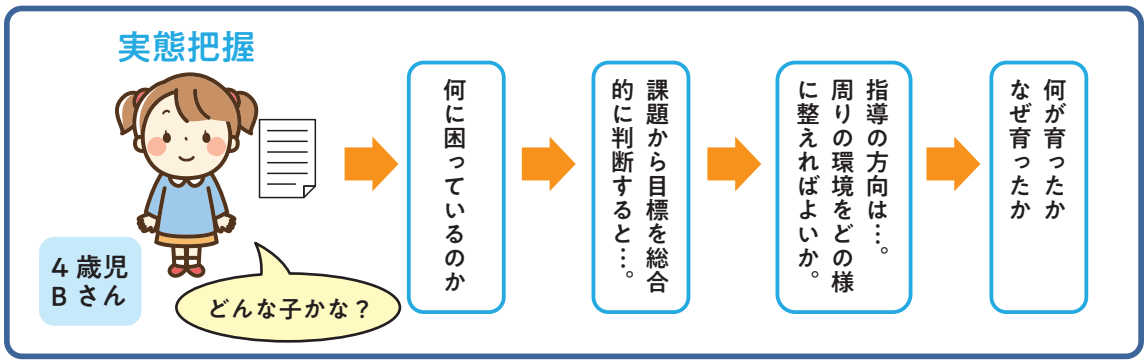
・個別の教育支援計画は、特別支援教育に関わる他機関との連携を図りながら長期的な視点で子供の教育的支援を行うために計画するものです。一人一人の障害のある子供について、幼児期から学校卒業後までの一貫した計画を学校や園が中心となって、保護者と共に作成し関係機関と連携していきます。これに対し、個別の指導計画は、一人一人の教育的ニーズに対応し、各園の教育計画に基づき、具体的に指導を行うために作成します。

個別の教育支援計画



（「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド　文部科学省　p16」を参考にして、一部修正）

個別の指導計画



（「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド　文部科学省　p17」を参考にして、一部修正）

特別支援教育において、個別の教育支援計画を作成するようになってきたのは、次のような経緯があります。

・文部科学省特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成 15 年 3 月）において、個別の教育支援計画が明記されました。その後、各都道府県等の教育委員会においては、個別の教育支援計画の手引き等が作成されるようになり、内容や様式等が示されています。

・中央教育審議会初等中等教育分科会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」（平成 24 年 7 月）において、合理的配慮について明記されました。その後、平成 28 年 4 月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」において「合理的配慮」が法的に位置づけられたことで、個別の教育支援計画にも記載されることが望ましいとされました。

・平成 29 年 3 月告示幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、「障害のある幼児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、個々の幼児の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。」（「幼稚園教育要領第 1 章総則の第 5 節 特別な配慮を必要とする幼児への指導の 1 障害のある幼児などへの指導」より）とされました。

（1）個別の教育支援計画

個別の教育支援計画について

あなたの園がある都道府県教育委員会のホームページを見て、個別の教育支援計画の作成に

ついて、どのような情報を発信しているか、確認してワークに取り組んでみましょう。政令都市等の場合は、政令都市等の教育委員会になります。それらを読んで、気付いたことや疑問点を書き出してみましょう。恐らく、特別支援教育の情報は、幼稚園から高等学校までの学校教育全体を対象にして書いていますので、幼稚園や認定こども園の場合、それらをどう受け止め書いたらよいのか悩むこともあります。そうしたことも気付きとして、率直に書き留めておきましょう。

【ワーク１】各教育委員会からの情報を整理してみよう（個別 30 分）

園内研修の事前ワークとして、各自で取り組んでおきましょう。

★自治体の「個別の教育支援計画」の書式を確認しましょう（それをコピーしておきましょう。ワーク５で使います）

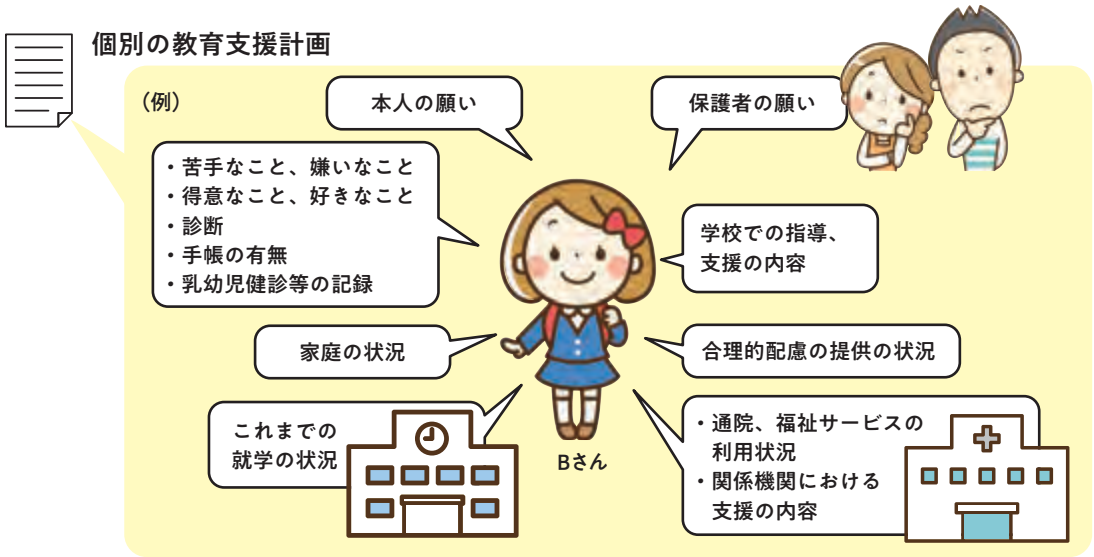
★あなたが、気付いたこと・疑問点はどのようなことですか。

【ワーク２】ワーク１の情報を園内研修で話し合ってみよう（園全体 30 分）

ワーク１の個別ワークでの気付きをもとに園内研修で話し合い、個別の教育支援計画作成に当たって、押さえるべきポイントを確認しておきましょう。

★個別の教育支援計画を作成する際に、押さえるべきポイント（どのような情報が必要ですか？連携先とは、どのように関わりますか？）

① 個別の教育支援計画の目的と対象、作成のプロセス等の基本的な事項を学ぶ



（「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド　文部科学省　p17」を参考にして、一部修正）

個別の教育支援計画の目的

・個別の教育支援計画の目的は「障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うこと」（今後の特別支援教育の在り方について（最終報告書）参考１「個別の教育支援計画」について）です。その実現のためには、福祉、医療、労働等の様々な関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが求められます。

個別の教育支援計画の対象

・対象は、障害のある幼児や児童生徒などで、特別な教育的支援の必要な者であり、障害の範囲は、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、言語障害、情緒障害、LD、ADHD、高機能自閉症等です。

・上記に加え、学習指導要領等では、特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、そして小中学校及び高等学校において通級による指導を受けている児童生徒には、個別の教育支援計画を作成することとされています。幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、障害のある幼児などに対して個別の教育支援計画を作成することに努めることとされています。

個別の教育支援計画作成と合理的配慮

・「個別の教育支援計画」を作成する中で、「合理的配慮」についても確認し、関係者が共通理解を図っておくことが求められます。発達の段階を考慮し、幼稚園等で提供できる「合理的配慮」について決定し「個別の教育支援計画」に明記します。その時に大切なことは、本人・保護者の意思を尊重しつつ、可能な限り合意形成を図ることです。

特別支援学校などの専門機関や専門家との連携

・幼稚園教育要領等では、「家庭，地域及び医療や福祉，保健等の業務を行う関係機関との連携を図り，長期的な視点で幼児への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努める」と記されています。

　このように、子供の生活を全体的に見通すために、家庭や関係機関との連携が不可欠です。

保護者との連携

・個別の教育支援計画を作成する際、保護者との連携は重要です。保護者と個別の教育支援計画に記載する情報の共有は欠かせません。また引き継ぎの際には、事前に保護者の同意を得る必要があります。

・このため、個別の教育支援計画の作成の意義や目的について、丁寧に説明します。個別の教育支援計画を保護者とともに作成し関係機関との連携の下、子供の支援に活用することについて理解を得ます。また、作成の場面ではできるだけ多くの情報を共有することが必要であり、日頃からの信頼関係が大切です。家庭や園での様子について情報を交換し合い障害の状況や教育的ニーズ等を共通理解し必要な合理的配慮を確認し合います。

　いずれにしても、子供の生活をより豊かにし将来の自立に繋げていくための支援の在り方を保護者とよく話し合う姿勢が大切です。

【ワーク３】学んだことについて、みんなで話し合ってまとめておこう（園全体 30 分）

	チェック項目	話し合ったことをまとめておきましょう
1	個別の教育支援計画作成の目的は何ですか。	
2	個別の教育支援計画を作成する際、どのようなことに留意したらよいですか。	
3	保護者が安心して個別の教育支援計画の作成に参画していくためには、どうしたらよいですか。	

【ワーク４】各園の個別の教育支援計画を作成するに当たっての課題について話し合おう（園全体 30 分）

個別の教育支援計画を作成する際の課題を整理し、その解決に向けて何をすることが必要か話し合ってみましょう。

あなたの園において個別の教育支援計画を作成する際の課題を整理しましょう。

② 実際の様式を使って、個別の教育支援計画を作成する

ワーク１で使った教育委員会が示す個別の教育支援計画の様式に沿って、個別の教育支援計画を作成します。ワーク５に入る際に、特別支援教育コーディネーターが、あらかじめ障害の種類や子供の姿、保護者との連携等についての必要な情報を整理し、共通理解をしておきます。その際、事例に挙げた幼児の個人情報に配慮しながら取り組みましょう。

実際に記入する際には、初めは、2、3 人のグループで作成し、その結果を園内研修で話し合うことにより、教職員の個別の教育支援計画を作成する力を付けておきましょう。

【ワーク５】事例の子供のフェースシートを作ろう（特別支援教育コーディネーター作成）

	具体的な内容
障害の種類	
支援体制	
家庭での様子	

園での様子	
地域での様子	
関係機関での様子	
保護者からの要望	

【ワーク６】　個別の教育支援計画を作成してみよう（2、3 人のグループワーク 10 分）

作成する際、記載が難しいところをメモしておきましょう。

メモ

【ワーク７】個別の教育支援計画の作成について学んだ成果をまとめてみよう（園全体 20 分）

ワーク６の成果を発表し個別の教育支援計画作成において留意することをまとめましょう。

まとめ

（2）個別の指導計画

個別の指導計画とは

個別の指導計画について、幼稚園教育要領解説には下記のように示されています。

幼稚園教育要領解説　第１章　第５節　（２）②個別の指導計画

「個別の指導計画は、個々の幼児の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある幼児など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

子供の実態に応じて適切な指導を行えるよう、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を 適切にかつ具体的に記していくことが大切です。

障害のある幼児などに対し、一人一人の障害の状態に応じ、適切な配慮や環境の工夫を検討することが大切なポイントとなります。

個別の指導計画の作成に当たって

個別の指導計画には、子供の様子（困りごと等の実態）、指導目標、指導内容及び指導方法、環境の構成や援助などが、整理されて明示されています。個別の指導計画を担任、支援員、預かり保育担当等の子供の指導に関わる人が共有することにより、計画的・継続的な指導が可能になります。

実際の個別指導計画の作成に当たり、まずはあなたの園のある都道府県の教育委員会で作成された手引き等を参照してみてください。それを基に各園の実態に応じて工夫を加えて作成していくことがよいでしょう。

・参考　栃木県幼児教育センター　幼児期の「個別の指導計画」を作ろう（パンフレット）
https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/kensyu/kensyu2019/kobetsu_shido/index.htm

① 個別の指導計画の作成に向けた手順

ステップ１　まずは、誰が何に困っているのかを整理する

子供が「困っている」ことと教師が「困っている」ことを整理する！

〇幼児教育は、一人一人の発達に応じて行われるものです。診断名の有無にかかわらず、その子が安心して園での生活ができるようにするために子供の様子に応じて個別の指導計画を作成することは、大切なことです。一人一人の育ちの中で「特にこの子が困っていることをみんなで理解し、育ちを共有していきたいな」という思いを抱いた場合には、積極的に個別の指導計画を作成していきましょう。

〇できれば、個別の指導計画を作成するときには保護者と十分な話し合いを行い、育ちの方向性を共有していくことが望まれます。しかし、

実際は保護者がまだ子供の状態を受け入れにくいことがあり、個別の指導計画に触れるのは難しいことも多いと思います。まずは、園での様子を丁寧に伝え、時に、家庭での様子を聞くなどして、保護者と共に子供を多面的に捉えることから始めていきましょう。

ステップ２　様々な情報を基に、育てていく方向を見いだす

子供の育ちを、様々な方向から多面的に捉えて課題から目標を総合的に判断する！

○診断名や一般的な障害特性などだけで子供を捉えると、子供の一面しか見えてきません。その子をいろいろな角度（日常の生活における行動観察、保護者からの聞き取り、専門機関からの情報、前年度の担任の情報等）を基に様々な側面から育てていく方向を見出します。

○その子の良さや可能性や困っていること等を理解し、その子が園生活の中で安心して遊んだり生活したりしていけるようにねらいを立てます。

○その際、無理に何かをできるようにさせるのではなく、発達を見通し、今、その子にとって必要な経験を考えます。例えば、物音に敏感で集団に入りにくい子供の場合、クラスのねらいは、友達と一緒に遊びを楽しむことだったとしても、まずは「落ち着ける環境で教師とじっくり遊び、その遊びをきっかけに友達の遊びに関心を向ける」というように、その子に応じたねらいを個別に立てます。

ステップ３　その子の困っていることに添って環境を変えていく

周りの環境をどのように整えればよいかを考える！

○幼児が興味や関心に基づき自発的に遊ぶことは、それ自体が目的であり、幼児にとっての学習です。しかし、障害のある幼児などについては、障害の状態により自発的に遊ぶことが難しい場合もあります。そのため、障害の状態に応じた環境の工夫が必要となります。ねらいに向かって、その子の周りの環境をどのように整えればよいか具体的に考えます。

○障害のある幼児などに対して環境が適切に整えられていないと、その子の困っている状況が積み重なり、自己肯定感や自尊心が低下するなどの二次的な課題が生じることもあります。

ステップ４　子供の育ちと指導を振り返り、改善の方向を探る

何が育ったか、なぜ育ったか！

○幼児理解に基づいた評価は、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意することが必要です。個別の指導計画においても、子供の姿の変容を捉え、育ちに応じて、支援の内容が適切であったのかを考え、指導目標や支援の内容を見直します。

○そのためには，子供の変容した姿から指導を振り返り、その育ちの

子供の姿の変容を捉え指導を振り返り評価することでＰＤＣＡサイクルを確立します。

背景にある様々な状況を整理します。その分析・考察をもとにして改善の方向を探り、ＰＤＣＡサイクルを確立していきます。なお、幼児教育においては、実践を通した幼児理解から始まることが多いため、下記のサイクルとなります。

ア、実態を通して変容した姿を捉える、何が育ったかを考える（D）
イ、指導を振り返る（C）
ウ、改善の方向を考える（A）
エ、次の指導計画作成をする（P）

このＰＤＣＡサイクルの期間は決まっていませんが、学期の終わりに、これまでの子供の姿や指導を振り返り、次の指導計画を立てていくとゆとりをもって見通せるのではないかと考えます。

② 個別の指導計画の実際

事例を読んでさらに理解を深めましょう。

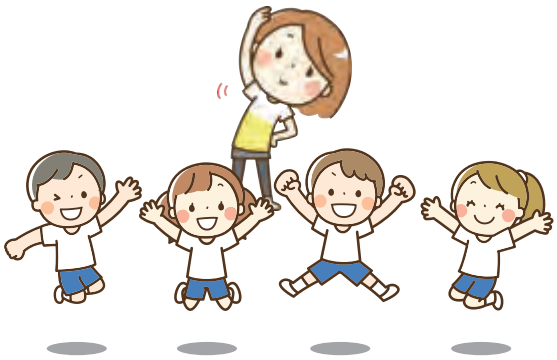
【事例　Ｆ児について】　５歳児４月某日

年長児クラスの 23 名。５月の運動会に向けて、ダンスを練習する計画にしています。事前にダンスをいくつかのパートに分けて、パートごとに担任がダンスの見本をみせて、子供たちがそれをまねながら覚えるという手順にしていました。

担任はダンスの見本をみせる前に、子供たちの意欲を高めるためにお話を始めました。「みんなはどんなダンスを見たことがある？」「どんな音楽に合わせて踊りたい？」など、子供たちに話しかけ応答しながら話を進めます。

話を始めてほどなく、自閉症スペクトラムの診断を受けているＦ児は興味がなさそうに部屋の隅にいってブロックで遊ぼうとし始めました。担任は、「Ｆさんはどんなダンスが好きかな？」などと尋ねますが、担任のほうを振り向くことなく、ブロックに熱中し始めました。他の子供たちがダンスの話に関心を高めていたため、担任は全体の話を進め、Ｆ児は支援員に任せました。支援員はＦ児に全体の話を聞いてもらおうと誘いますが、Ｆ児は応じません。

その後、ダンスの練習になりましたが、Ｆ児はチラっと見るものの、他の子供と一緒に体を動かすことはありませんでした。



【ワーク８-a】　担任が困っていること、子供が困っていることは何だろう（個別 10 分）

上記の事例の中で、私がＦ児にしてほしいこと、Ｆ児が担任にしてほしいこと、を考えてみましょう。その後、Ｆ児が困っていることは何かを話し合ってみましょう。

私がＦ児にしてほしいこと	Ｆ児が担任にしてほしいこと

【ワーク８-b】　ねらいを立ててみよう　（個別 10 分）

下記の様々な情報をもとに、Ｆ児のよさや可能性、困っていることを理解し、ねらいを立てましょう。

〈前年度の担任の話〉

Ｆさんは、電車や恐竜が好きでブロックとか粘土で作るのが好きだったよ。いつも話を聞かないわけじゃなかったけど、他の子供たちがたくさん発言して騒々しくなると、ちょっと距離を置きたくなるみたいで離れることが多かったかな。だけど、部屋から出ていくことはなかったから、自分のクラスっていう意識はあったと思う。

〈母親の話〉

家で私の話は全然聞いてくれません（苦笑）。アレしなさい、コレしなさいって、たくさん言い過ぎるからよくないんだろうと思うんですけど、ついつい言っちゃうんです。でも、父親と興味のあることを話すときは真剣に聞いていますし、たくさん話もしています。熱中しすぎて他のことはやってくれないから困ることもあるんですけどね。

〈心理師から受け取った発達検査の所見〉

入室時に緊張感があり、すぐに検査をすることはできませんでした。母親と一緒に持ってきたブロックをすることで、落ち着いて検査に取り組むことができました。検査の結果から、全般的な知的発達の遅れは見られません。ただ、情報処理の面において、聴覚的な情報処理よりも、視覚的な情報処理のほうが優位であることが認められました。

Ｆ児のよさや可能性、困っていること	運動会における個別のねらい

【ワーク8-c】運動会における具体的な指導方法・環境の工夫を考えてみよう（個別20分）

上記のねらいを踏まえ、具体的な指導方法や環境の工夫について考え、5領域や10の姿を参考に話し合ってみましょう。

具体的な指導方法	環境の工夫

2．学級経営を見直そう

特別な配慮を必要とする子供に対し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等が重要なことは、前のワーク等で学ぶことができたと思います。しかし、実際の保育の中では、子供同士の関わりや学級全体の育ちに対する指導に悩むことも多いのではないでしょうか。

個別に教師や支援員が行う指導や支援を、学級の子供たちはよく見ています。そこで、特別な配慮を必要とする子供がどう受け止められているのか、自分たちはどう接したらよいのかなど、とても大切なことを学んでいきます。「困った子」と捉えられているのか、学級の一員として受け入れられているのかは、共に過ごす環境では明確に感じとれます。個別の指導と並行し、集団生活の中で豊かな人間関係を育んでいくことが大切です。

この学級経営のワークでは、日頃の悩みを書き出してそれぞれの考えを出し合うことから、園全体での課題の共有や、協力体制に繋げることを期待しています。一度に全てのワークに取り組むということではなく、関心のある項目から何回かに分けて実施するとよいと考えています。ワークのテーマを以下に示します。

学級における関係性を考えよう

このワークでは、現在受け持っている学級の様子を見直します。全体的な学級の子供たちの関係性に着目することで、子供同士の繋がりを見つめてみましょう。さらに、担任の支援が必要な子供との関係性などを見つめてみます。

今の悩みを出してみよう

教師が「困る」と感じる行動が保育中に頻繁に起きると、どう対応したらよいか悩み、誰かに助けてほしいと思うことはないでしょうか。まずは、一人で悩まずに園全体で共有することが大事です。他の先生方のアイディアは、すぐ、明日の保育に生かせることもあります。また、悩んでいることを共有すれば、助けてほしいときに力になってくれると思います。また、教職員が「困っている」とき、実はその子もまた、「困っている」という視点でも考えてみてください。

事例を通して考えよう

事例を通したワークは、状況を客観的に捉えて話し合うことができます。これに似た出来事が自分にもよくある、そんな共感できる事例の中で一人一人の子供の気持ちや、学級全体の関係性、教職員や支援員の動きなどに着目してみましょう。

振り返ってみよう

ワークを実践してみて、気が付いたことや、考えたことを各自で書いてみましょう。枠の大きさにとらわれず、自由に書き込んでみてください。

同じ場面を見て考えよう

ビデオカンファレンスでは、同じ場面を観て話し合うことで、状況や、個々の子供の気持ちの揺れ動きや変化に着目ができます。特に同じ場面を数回見ることで一度では気付かないことが見えてくることがあります。自身の園で一定の時間を撮影して研修することが難しい場合は、教育ビデオなどを活用することも効果的です。取り掛かりやすい研修方法を考えてみてください。

（1）学級における関係性を考えよう

【ワーク9-a】学級における関係性を考えよう（個別 20 分）

このワークは、学級における子供同士や担任との関係性を見直すものです。以下の質問の答えを簡単に記載しながら、学級の様子を振り返ってみましょう。

1．今、特別な配慮の必要な子供を含む学級経営で悩むことはありますか

2．学級の中の子供同士の関係が「どのような関係だとよい」と考えますか

3．2のような学級にするために、担任が子供にどのような対応をするとよいと考えますか

学級における関係性を見直す（グループワーク 30 分）

4．すぐに実践できそうなことは、ありそうですか。できそうなことを以下に書き出してみましょう。

【ワーク９-b】学級における関係性を考えよう（グループワーク 30 分）

このワークは、グループワークです。他の教職員と共有した情報をメモしてみましょう。率直な意見交換ができるよう、ファシリテーターは配慮しましょう。

ワーク９-a のシートをもとに、情報共有してみましょう。

「自分の学級以外」の実態について、報告を聞き、普段抱いている印象などを出し合ってみましょう。

自分の学級経営で心掛けていることは何ですか？

ワーク：今の悩みを出してみよう

（2）今の悩みを出してみよう

このワークは、特別な配慮が必要な子供の実態を振り返るものです。子供の様子や支援、その背景を振り返ってみましょう。まず、学級にいる支援の必要な子供を「一人」思い浮かべて、悩んでいることを３つ書き出してみましょう。

記入例

みんなで集まるときに部屋から出て行ってしまう。 → 出て行ってしまう子供を追いかけて、学級の半数以上の子供が、保育室から出て行ってしまう。 → 「Zちゃんは、悪い子」「Zちゃんだけ遊んでいて、いいな」という言葉が聞かれるようになってきた。

・その悩んでいることは、どのような時に起こりやすいですか。

製作・絵本を見る、教師の話を聞く一斉活動の時。

担任がどうしても今日中にやりたいと思うことがあるとき。行事の前など。

担任が他の子供に「まねをしなくてよい」「みんなは、ちゃんと座って」などという時。

・その時に、どのような対応をしていますか。

支援員に追いかけてもらい、部屋の外で落ち着くまで好きなことをして遊ぶようにしている。 → とりあえず活動を進めたいので、他の幼児には部屋に戻るように声を掛けて、やり始める。 → ちゃんとやっている子供を褒める。

・指導の成果はどうですか。

出ていけば遊べると思ってしまっていて、わざと振り返りながら出ていく。成果はない。 → 他の幼児は声を掛ければ戻ってくるが活動に集中しにくく、あまり成果は感じられない。 → 褒められると、一時は喜んで集中をするが、「〇〇ちゃん、いけないんだ!」と友達を否定する言葉や、指摘する言葉が増えてきている。

・今後、どのようになってほしいと考えていますか。

みんなでする活動も楽しんで参加してほしい。

一斉活動のたびに、トラブルや騒ぎが起きるので、何とか楽しい一斉活動がしたいのですが。

支援の必要なZ児を温かく受け入れて欲しい。学級で支え合えるような関係にしたい。

～実際に記入してみましょう～

【ワーク 10-a】個を見つめてみよう（個別 20 分）

1. 学級にいる支援の必要な子供を思い浮かべて、悩んでいることを 3 つ書き出してみましょう。

2．その悩んでいることは、どのような時に起こりやすいですか。

3．その時に、どのような対応をしていますか。

4．指導の成果はどうですか。

5．今後、どのようになって欲しいと考えていますか。

書き込んでいくうちに、少し、悩みの解決の糸口が見えてきましたか。

【ワーク 10-b】個を見つめてみよう（グループワーク 30 分）

このワークは、グループワークです。ファシリテーターは、参加者が年齢や経験に関わらずに自由なやり取りができるよう心掛け、活発な意見が出るように配慮しましょう。

○日常的に悩んでいることに対する支援で、思い浮かぶことを出し合ってみましょう。

○他の教職員をサポートする側にもなれます。どのようなことができるでしょうか。

（3）事例を通して考えよう

特別な配慮が必要な子供を含む学級の経営では、自身の保育に悩むことが多いものです。ここでは、事例を通して状況を客観的に読み解きながら、なぜなのか、どうしたらよいか、どんなアイディアがあるか、いろいろな考えを出すことがねらいです。個人でのワーク、あるいはグループでのワークのどちらでも取り組めます。ワークに取り組むことで、明日から生かせることがみつかるのではないでしょうか。

また、問いに対する自分やグループの考えや意見などは、付箋などを活用するなど、別紙に記入するようにしましょう。

【ワーク 11】学級全体での活動が苦手な子供について考えよう（個別またはグループワーク 40 分）

事例：学級全体での活動が苦手　4 歳児 6 月

学級全体での活動に参加することが苦手な子供が学級にいませんか。担任が「さあ、これから始めましょう」、と意気込むと保育室からいなくなってしまう…。追いかけるべきか、他の教職員等に追いかけてもらうべきか悩む事例です。

〈これまでの経過〉

A 児は、入園当初から初めての活動や場所に抵抗を示す様子が見られました。他の子供がいるとなかなか保育室に入ろうとせず、廊下や誰もいない場所に行きたがりました。誰もいない場所での遊びに興味を示すので、A 児がゆっくり落ち着いて遊ぶことができる空間をつくりました。次に、その場所を少しずつ保育室に近付けていきました。

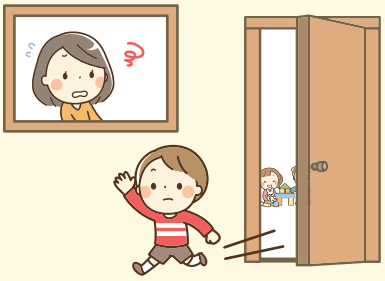
すると、1 学期中頃には自分から保育室に入って遊ぼうとする姿が見られるようになりました。学級担任は一緒に遊びながら信頼関係を築くように努め、A 児が学級のみんなと同じ空間でも安心して過ごせるように配慮してきました。降園前など、少しずつ学級のみんなと集まって過ごす姿が見られるようになっています。

〈エピソード〉

降園前に支度を済ませた子供が保育室に集まってきます。A 児も自分の安心する場所を見付けて、自分で座ります。

担任は、学級のみんなで過ごす楽しさが感じられるようにと、手遊び歌を始めました。みんなで拍手をしたり、足音を立てたりして、段々と盛り上がってきました。A 児は手遊びには参加せずに、他の子供がしていることを見ていました。担任は、“まだあまり馴染みのない手遊びだから、見ていることで安心して参加し始めるかな…”と、その様子を見守っていました。

すると突然、A 児が立ち上がって、ピュ～っと保育室を出て行ってしまったのです。担任は「A くん！」と咄嗟に声を掛けましたが、他の子供がみんな保育室にいて手遊び歌を楽しんでいるので、動くことができませんでした。何人か気付いた子供が「あれ？A くんがいなくなっちゃったよ」「どこいったの？」と話し出しました。A 児はそのまま廊下に出ていったところを、たまたま通りがかった T 先生に出会いました。T 先生は、A 児の表情が強張ったように見え、A 児の日頃の様子から何か保育室であったのかなと察知し、「A くん、もう大丈夫だよ、びっくりしたね」と声を掛け、A 児の動きに寄り添いながら、場所を移動しました。



○ A 児はなぜ、保育室を出て行ったのだと考えますか。

〇上記の理由を受けて、A 児にどのような関わりをしたらよいでしょうか。

〇その背景を受けて、どのような環境の構成をしたらよいでしょうか。

〇他の子供がA児の行動に気付いたときに、他の子供にどのように声を掛けたらよいでしょうか。

【ワーク 12】 言葉や状況を理解することが苦手な子供について考えよう（個別またはグループワーク 40 分）

事例：言葉や状況を理解することが苦手　5 歳児 11 月

「手がかかる子」ばかりではなく、気が付きにくい「特別な配慮が必要な子供」が学級にいませんか。静かで自分からはあまり周囲に働き掛けはしないけれど、実は困っているという子供がいます。この事例では、“ 就学に向けて ” ということも視野に入れて、指導の方向も考えましょう。

〈これまでの経過〉

B 児は 5 歳児から途中入園してきました。以前の園へは、2 歳児から通っていた療育施設と併用して通っていたということから、転居しても療育施設への通所は継続し、また本園では支援員を配置することにしました。

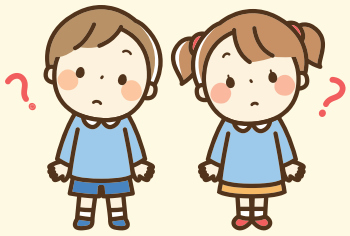
転園当初は、新しい環境が刺激的だったようで自分の思いのままに行動していました。徐々に園環境に慣れてくると、少しずつ行動をコントロールすることができるようになってきました。穏やかな性格で、他児に手を出すことはありません。また、これまで療育施設で座って姿勢を維持するようなトレーニングを受けていることもあり保育室を出て行ったり、席を立ったりすることもほとんどありません。一方で、学級全体での活動やグループの取り組みでは、自分で興味や関心がもてないことには、その場にいても黙って違うことを始めます。支援員がその様子に気付いて声を掛けますが、なかなか参加することが難しい様子です。就学も近付いてきているので、就学に向けた支援や引継ぎにも頭を悩ませています。

〈エピソード〉

遊園地に遠足に出掛けた体験から、学級のみんなで「遊園地ごっこ」をすることになりました。自分の作りたい乗り物を選び、4～5 人の友達とグループで取り組みます。

B 児が自分で興味をもって取り組めるように、写真を使ってやりたいものを選べるようにしたり、グループの仲間と一緒に、作るものをイラストに描いて大まかな見通しがもてるようにしたりして、環境を整えていきました。文字や数字に関心の高い B 児が、看板の文字を本物らしく書いてみせると、同じグループの子供からも「B くん、すごいね！」と認められるような場面も見られました。

一方、日によって B 児の気持ちがのらずに、グループで取り組む時間になっても、参加しようとしないことがありました。支援員やグループの仲間が呼びに行くと一度はその場に来ます。しかし、すぐに B 児は「遊園地ごっこ」とは関係のない遊びを一人で始めます。担任は全体の活動として見ていると、何となく自分のグループの場に留まるので、見落としてしまいがちでしたが、段々と集団の場から離れる行動が増えていきました。担任は、“ これでよいのかな？ ” と悩み始めました。グループの仲間も、「B くん、また一人で違うことやっているよ」「同じグループなのに…」と、B 児の苦手さに配慮しながらも、不満をもち始めている様子です。



○グループの取り組みにおいて、B 児はどんなことを感じているでしょうか。

○ B 児はなぜ、集団参加が難しいのでしょうか。

○グループの他の子供に対しては、どのような配慮をしますか。

○「就学に向けて」という視点で考えたとき、どのような配慮が必要だと思いますか。

【ワーク 13】支援員と連携について考えてみよう（個別またはグループワーク 40 分）

事例：支援員と連携がとれない　3 歳児 10 月

学級経営を考えるとき、「支援員の先生との関係」に悩むという声があがります。相談や打ち合わせをする時間が十分にとれない中、指導の方向性を共通にすることが難しいのが現状です。チームとして協力し、支援していくためにできることは何でしょう。

〈これまでの経過〉

3 歳児学級 20 名の中に特別な配慮が必要な子供が 4 名在籍しており、学級担任の他に、支援員が 2 名配置されています。C 児は活動の変わり目の気持ちの切り替えが苦手で、片付けもなかなか気が向きません。しかし、朝の持ち物の始末や帰りの支度などができるようになってきている実態を捉え、帰りの時間に持ち物を自分のリュックサックにしまうことを生活の指導のねらいにしていました。C 児は、1 学期後半には、朝の身支度や帰りの支度は自分で行うことができていました。

〈エピソード〉

C 児は帰りの支度の時間になると、「(家に) 帰らない」と言って、保育室から出て園庭に走って行ってしまったり、廊下や絵本のコーナーで絵本を読み始めたりすることが増えました。支援員がその都度、「お迎えが来るよ」「一緒に支度をしましょう」と声を掛けました。すると、支援員に「この本読んで」と絵本を持ってきました。「じゃあ、この一冊を読んだら、お部屋に戻りましょう」と約束をすることで保育室に戻ることができるようになっていきました。

保育室に戻ると、他の幼児は支度が終わり、配布物を受け取ったり、絵本の読み聞かせを聞いたりしています。C 児は、帰りの支度を「できない」「やって」と支援員にせがみ、支援員がほとんど手伝っている状態です。

この状況が何週間も続きました。すると、帰りの時間になると C 児ばかりではなく、他の幼児も「できなーい」「手伝って」と支援員に頼るようになってきました。また、他の幼児が支援員を頼ってくると、C 児はわざと保育室の外に出て支援員に追いかけてもらうことを求めるようになりました。

○ C 児は何を求めているのでしょうか。

〇なぜC児は支援員を頼るのでしょうか。

〇支援員とどのような話し合いが必要でしょうか。

〇なぜ他児は支援員を頼るのでしょうか。

（4）学級経営について振り返ってみよう

【ワーク 14】「学級経営を見直そう」（1）～（3）に関するワーク（ワーク 9 ～ 14）に取り組んで、下の問いに沿って振り返ってみよう。（個別 15 分）

1．ワーク 9 ～ 13 を実施してみて、自身の保育の中での子供への関わり方が変わったと感じることはありますか？

2．実践をして難しかったことは何ですか？

3．明日からできそうなことはありますか？

（5）同じ場面を見て考えよう

【ワーク 15】ビデオカンファレンスを通して考えてみよう（グループワーク 60 分）

保育の場面を 20 分程度録画して、みんなで視聴して、以下の問いを話し合ってみましょう。DVD の活用も可能です。

園での保育の様子を撮影する場合は、どのような場面を撮影してもらいたいかという担任の要望を聞き、担任以外の人が 20 分程度撮影するとよいでしょう。あまりたくさん撮影しても、検討するための時間が十分に取れないこともあります。

自然な普段の様子が撮影できると、話し合いの手掛かりになるでしょう。

① 視聴した感想を以下の視点から出し合ってみましょう。

（ア）担任の動きについて

（イ）誰か特定の子供に焦点を当てて

（ウ）環境の構成について

（エ）学級全体の様子について

②みなさんが担任だった場合、どのようなことに配慮して指導をしますか。（箇条書き）

（ア）誰か特定の子供への関わり

（イ）周りの子供や学級全体への関わり

（ウ）環境の構成

3. 指導の過程の振り返りと改善の方向について考えよう

幼稚園教育要領解説では、保育における評価は、「幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である」とあります。つまり、子供の発達する姿を捉えることと、それに照らして教職員の指導が適切であったかどうかを振り返り評価すること、の両面について行う必要があることを示しています。あくまでも子供の発達への評価ではなく、教職員が実践した指導への評価です。

この章は、週案など短期の計画の振り返りを少し丁寧に行うことで、明日の指導を具体的にイメージできることを目的にしたワークになっています。「今日はこうだった」「この活動をした」「全員が出来上がった」という記録や振り返りから、一歩踏み込んでみましょう。

「どうしてこうなったのだろう」「もしかして、こうだったのかな」という仮説や、「もし、こうしたら、どうだったのだろう」と予想しながら、多様な考えを書き出してみることが大切です。そのことが、自身の幼児理解の力を高めていくことに繋がります。その幼児理解をもとに、次の指導の手立てを考え、明日の保育に生かしましょう。

ここでは、２つのタイプのワークシートを用意しました。

子供の“思い”や“困難さ”に寄り添う振り返りシート

日々の具体的な保育場面の中で、「この場面での○○さんの姿が気になる」「この場面では、○○さんにどんなふうに関わったらよかったのだろう」と思う場面から、エピソード記録をベースにしたワークシートです。

エピソード記録を用いて１問１答式でワークを進めていくことで、子供の“思い”や“困難さ”に寄り添いながら、自分の考えを整理したり、記入後に他の教師と共有しながら考えを広げたりして、指導の工夫や改善を目指します。**【ワーク 16】**で実際に記入しましょう。

週案の記録などからＰＤＣＡを考えようシート

週の計画における評価の中から気になっていることを省察し、次の計画に生かしていくためのＰＤＣＡサイクルで考えていくワークシートです。ＰＤＣＡサイクルで具体的な支援を考えていくことで、子供の実態やねらいに立ち返りながら、一人一人に応じた支援が実現されているか省察し、次の計画における手立てを導き出すことで指導の工夫や改善を目指します。

これらのシートを活用し、評価の方法を工夫しながら、日々の具体的な場面から省察されることや指導の工夫や改善について、書き溜めていきましょう。書き溜められた材料から、学級経営における位置付けを考えたり、個別の指導計画と照らし合わせて見直したりすることも目的としています。

（1）「子供の“思い”や“困難さ”に寄り添う振り返りシート」

具体的な指導における気になる場面から考えていくときに、つい担任側の一方的な思いだけで“何とかしなくちゃ”と焦って考えることがあるのではないでしょうか。

この「振り返りシート」は、“担任の思いの自覚化”と“子供の心の世界の推測”から、気になる場面のエピソードの掘り起こしをすることで、子供の思いに寄り添いながら、指導の工夫や改善を進めることを目指します。

記入例

以下の記入例は、本冊子の【ワーク 11】事例を読んで、問いに沿ってワークをしてみようの場面を例に、作成しています。　※青字部分が記入例です

①エピソード記録

まず、自分の中で気になった保育場面をエピソード記録に起こしてみましょう！

A ちゃんは少しずつ、みんなでする活動に参加するようになっていたのに・・・どうしてあの時、飛び出して行ってしまったのかな。A ちゃんのことが気になったけれど、他の子供たちもいるし・・・どうしたらよかったのだろう。
その場面をエピソードで書いてみよう。

① エピソード記録（記述後、教職員の関わり部分に下線 or マーカー）

※自分以外の教職員の関わりは色を変えてマーカーしておくのもよいです

降園時にみんなで集まり、手遊び歌をした。みんなで拍手をしたり、足音を立てたりして、段々と盛り上がってきた。A 児は手遊びには参加せずに、他の幼児がしていることを見ていた。私は、その様子を見守った。すると突然、A 児が立ち上がって、ピュ～っと保育室を出て行ってしまった。「A くん！」と咄嗟に声を掛けたが、他の幼児がみんな保育室にいて手遊び歌を楽しんでいるので、動くことができなかった。何人か気付いた幼児が「あれ？ A くんがいなくなっちゃったよ」「どこいったの？」と話し出した。廊下で T 先生が関わってくれていたので、そのまま活動を続けた。

②担任の思いの自覚化

思いのままに自分の思いや、考えていること、
悩みなどを書き出してみましょう（数は自由です）

このとき、私はどんなことを思っていただろう。
自分の思いを、思いつくままに、正直に書いてみよう。

②担任の思いの自覚化

＼担任の思い／
A児が保育室に入って集まれるようになってきたし、学級のみんなで過ごすことが楽しいと感じてほしい。

＼担任の思い／
なんで急にいなくなっちゃったのかな？この間は、掛け声のある手遊びは大丈夫だったのに。

＼担任の思い／
みんなで集まっているときに突然出て行っちゃうと、他の子もいるから困っちゃうな…。

③子供の心の世界を推測

今度は視点を変えて、子供になったつもりで、そのエピソードで子供が感じていること、願っていることなどを想像しながら書いてみましょう

Aちゃんはどんな気持ちで飛び出していったのかな。
周りの子も何か感じているかもしれないな。

③子供の心の世界を推測

＼子供の思い／
（A児）
何が始まったのかな…
見てれば大丈夫かな。

＼子供の思い／
（A児）
なんか大きい音がして
きて嫌だな、怖いな…。

＼子供の思い／
（他児）
Aちゃんはどうして
一人で勝手にいなく
なるのかな。

④想定される要因・発達の捉え

そこから、なぜそのような子供の姿が表れるのかを考えてみましょう。（他の子供の姿の様子にも目を向けてみてもよいでしょう。）

Ａちゃんが飛び出していった理由はなんだろう。
Ａちゃんが育ってきている部分は、どんなことかな。
周りの子供たちは、どんなことが育っているのかな。

④想定される要因・発達の捉え

音に敏感な傾向があるのではないか。少しずつＡ児のペースで学級のみんなで安心して過ごせるようになっている。（自分以外の存在も気になるなど、学級の中の他の子供の育ちも見られる）

⑤子供自身が望んでいることは？

気になっている場面から、子供自身が望んでいることは何か？という視点で考えてみましょう。好きなことや興味や関心があること、育っていることなどから探って書き出してみてもよいです。（担任の気になる視点について、子供側からの視点による改善を目指します）

そうだ！Ａちゃんが好きな忍者が出てくる手遊びのときは、初めてだったけど自分から参加していたな。
学級のみんながいる場には最初なかなか入れなかったけど、様子は気にして部屋の隅から見ていたこともあったな。

⑤子供自身が望んでいることは？（好きなこと、興味や関心、育っていること）

安心してできることはやってみようとしている。でも、不安になるとその場にはいたくないな。（自分で安心と思えば、その場にいられることが増えている。安心して楽しめるようになっている集団遊びもある。）

⑥改善の方向性

⑤の内容から、改善策を考えてみましょう。「〇〇ちゃんはこんなふうに思っているから、～をしてみよう」という考え方で記入してみます。

Aちゃんは初めてのことは不安に思っているけど、やってみたい気持ちももっていそう！
安心してできる方法と、不安になったときにどうするかという方法も考えてみよう。

⑥改善の方向性

初めての活動のときは、予測を立てて、A児にも予告をしてみる。保育室が居心地のよい場所と感じられるように、嫌なことや苦手と思われることは、回避の方法も用意しておく。他の教職員とも連携する。

⑦具体的手立て

⑥の内容から、具体的な手段を思い付くだけ書いてみましょう。具体的な想定と関わり方、園にある具体的な環境を考えて、書いてみるとよいです。

Aちゃんが不安になるのは、大きな音がするときかな？
その時、どんな関わりをしたり、どのような環境があったりすると安心できるかな。
安心してみんなで一緒にできる方法と、みんなと一緒でなくても、Aちゃんの“やってみたい気持ち”を受け止めてできる方法があるかな。

⑦具体的手立て

音に驚いている様子の時には、傍に寄り添って安心できるようにする。耳をふさぐなどの方法を知らせる。どうしてもその場にいられない場合は、廊下の絵本コーナーの隣に本児の居場所を作る。

⑧その後・子供の姿の変容

最後に、⑦で記入した保育の改善について、実際にやってみた結果どうであったかを記録しておきます。それによって、分かったことや感じたことを合わせて記入しましょう。子供の姿の変化として記録をしておくことも効果的です。

実際にやってみて、それに対してＡちゃんがどんな反応を示していたか、何か変化が見られたかに着目して、なるべく具体的に記録をしておこう。
また別の方法を試すきっかけになったり、その先の課題も見えてきたりするかもしれないな。

⑧その後・子供の姿の変容（後日記入してみましょう）

突然の大きな音が苦手そうであることが見えてきた。居場所ができて安心したのか、極端に不安でいられないという様子は減ってきた。一方で、その場に依存している傾向もあるようにも感じている。

気になっている場面から、
○ 自分の思いに向き合って
○ 子供の思いに向き合って
その子に応じた様々な「手立て」を探っていくための思考のプロセスです。必ずしも全部の項目を埋める必要はありません。個人ワークの後、グループワークとして、同僚や先輩の先生と一緒に考えてみてください。

まずは、自分なりに思考のプロセスを辿ってみよう。
書けなかった項目は、自分の見えていなかった部分に、気付くことができたという成果にもなるわ。

～では、次ページから実際に作成してみよう～

以上で、「記入例」は終わりです

【ワーク 16】「子供の“思い”や“困難さ”に寄り添う振り返りシート」を作成しよう
（個別またはグループワーク 60 分）

①エピソード記録

自分の中で気になった保育場面をエピソード記録に起こしてみましょう！

①エピソード記録（記述後、教職員の関わり部分に下線 or マーカー）

②担任の思いの自覚化

思いのままに自分の思いや、考えていること、悩みなどを書き出してみましょう（数は自由です）。

＼担任の思い／

＼担任の思い／

＼担任の思い／

③子供の心の世界を推測

子供になったつもりで、そのエピソードで子供が感じていること、願っていることなどを想像しながら書いてみましょう

＼子供の思い／

＼子供の思い／

＼子供の思い／

ここから、同僚や先輩と一緒に考えてみてもよいです

④想定される要因・発達の捉え

なぜそのような子供の姿が表れるのかを考えてみましょう。（他の子供の姿の様子にも目を向けてみてもよいでしょう）

④想定される要因・発達の捉え

⑤子供自身が望んでいることは？

子供の好きなことや興味・関心があること、育っていることなどから探り、望んでいることを想像して書きます。（担任の気になる視点について、子供側からの視点による改善を目指します）

⑤子供自身が望んでいることは？（好きなこと、興味や関心、育っていること）

⑥改善の方向性

「〇〇ちゃんはこんなふうに思っているから、～をしてみよう」という考え方で記入してみます。

⑥改善の方向性

⑦具体的手立て

⑥を実現するための具体的な想定と関わり方、園にある具体的な環境を考えて、書いてみましょう。

⑦具体的手立て

⑧その後・子供の姿の変容

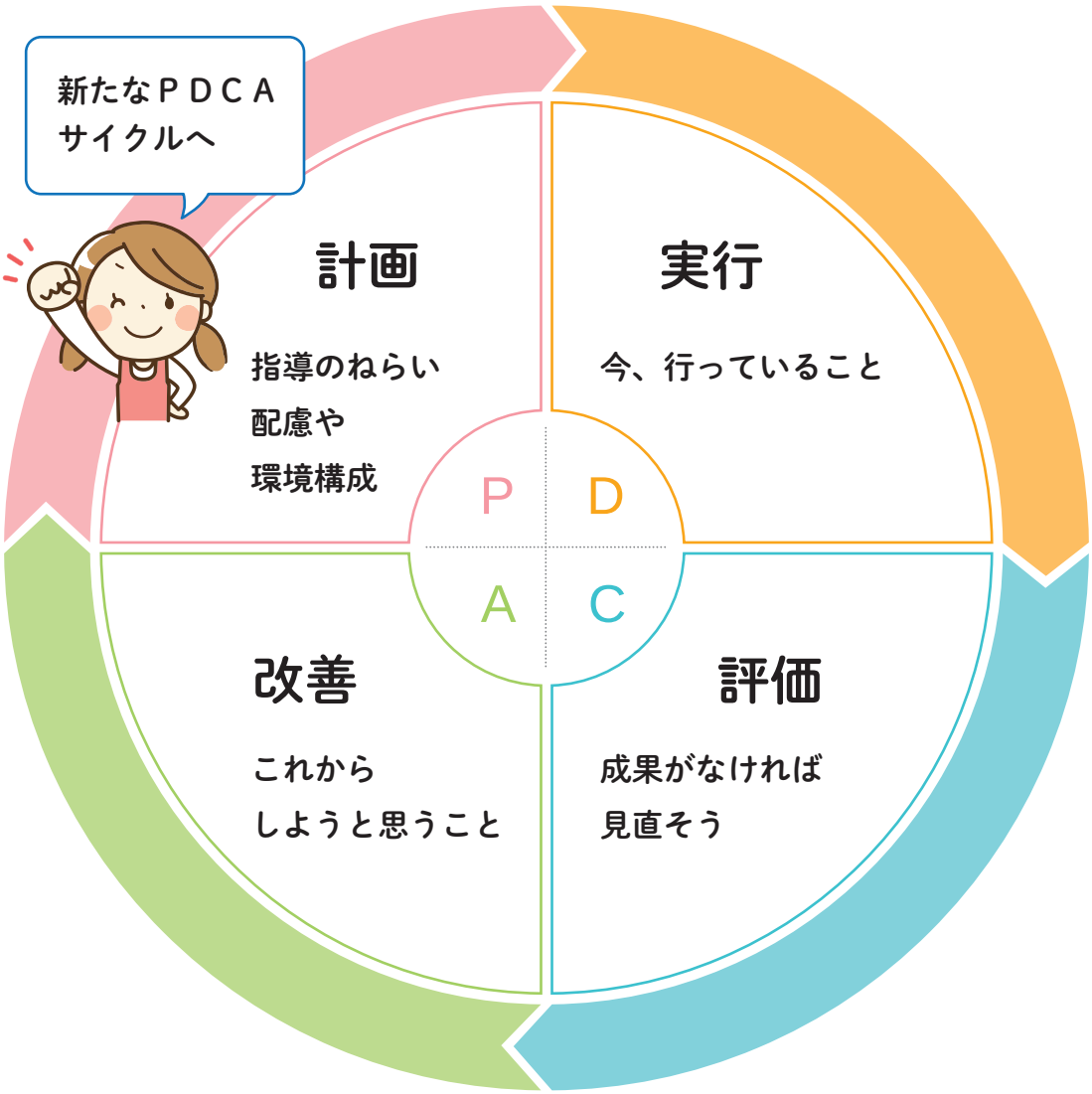
実際にやってみた結果を記録します。それによって、分かったことや感じたことを合わせて記入しましょう。

⑧その後・子供の姿の変容　後日記入

（2）「週案の記録などからＰＤＣＡを考えよう」

具体的な保育の場面での支援を反省・省察してみましょう。週案の反省の中で気になっていることを、ＰＤＣＡの枠の中に順を追って記入していくことで次の計画に繋がるようにしてみましょう。

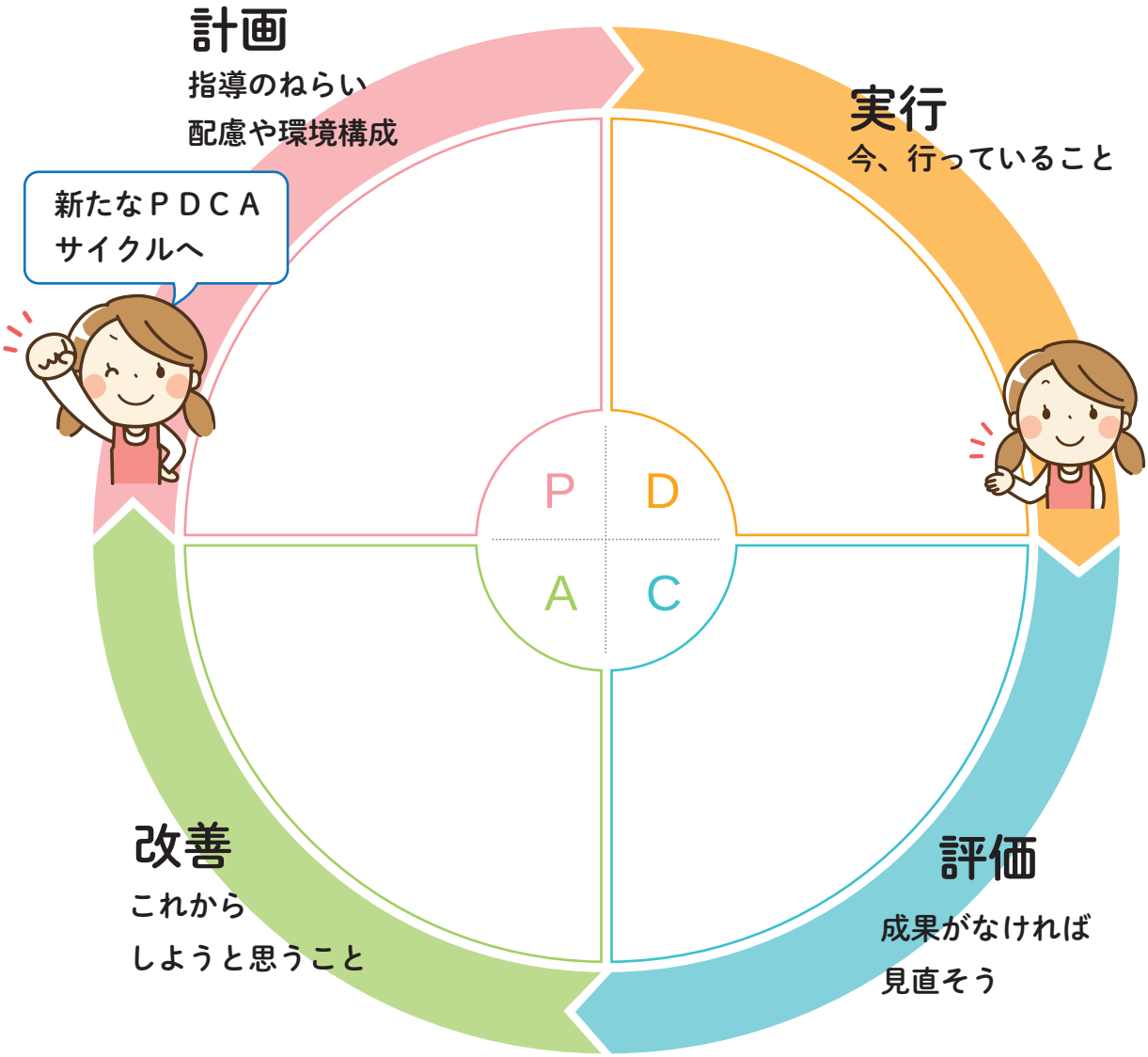
P Plan（計画）　**D** Do（実行）　**C** Check（評価）　**A** Action（改善）



【ワーク 17】週案の記録などからＰＤＣＡを考えよう（個別 40 分）

PDCA サイクルでの具体的な支援を考えてみましょう。

子供の実態



○書き込んでみて、具体的な支援の方法が見付かりましたか。学んだことを書き留めてみましょう。

4.「指導・支援」のまとめ

本章への取組を通して、様々なことを身に付けたことと思います。本編の目的に基づき、研修の確認項目を並べます。　□にチェックして確認しましょう。

□個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成について、基礎的な理解から実際の作成まで実践的に学ぶことができましたか。
□学級での活動や学級の子供たちへの関わりや援助の在り方を検討する際、学級全体への指導と個人への指導とのバランスの大切さをとらえることができましたか。
□実践を振り返るワークを実施することにより、各園で実践してきた特別な配慮を必要とする子供への指導の課題を把握しつつ、整理できましたか。
□「3.指導の過程の振り返りと改善の方向」におけるワークから、子供の発達や日ごろの教師の保育の振り返りの視点が明確になり、整理することができましたか。また、振り返りをする重要性を学びましたか。

本章の活用から、特別な配慮を必要とする子供の指導において、一人一人きめ細やかな指導や支援ができるよう計画を作成して実践に繋げられたと思います。さらに、学級経営や指導の過程の振り返り、特別な配慮を必要とする子供の理解が深まることを期待します。

「法令・参考資料」

・文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告)」平成 24 年
・文部科学省「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」平成 27 年
・文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」令和 2 年 3 月 参考資料３　初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド .pdf
・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」平成 28 年施行
・文部科学省　「幼稚園教育要領解説」平成 30 年

・栃木県幼児教育センター
幼児期の「個別の指導計画」を作ろう（パンフレット）
https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/kensyu/kensyu2019/kobetsu_shido/index.htm
・富山県総合教育センター
「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル
http://center.tym.ed.jp/wp-content/uploads/2019manual.pdf
・和歌山県教育委員会
特別支援学校版「つなぎ愛シート【個別の教育支援計画】」（教員向け）啓発リーフレット
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/d00153525_d/fil/atunagiai_kyo.pdf
特別支援学校版「つなぎ愛シート【個別の教育支援計画】」（保護者向け）啓発リーフレット
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/d00153525_d/fil/tunagiai_ho.pdf
・山梨県教育委員会　「『個別の教育支援計画』の作成と活用の手引き」平成 30 年 12 月
https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/tokubetsushien/documents/30_shienkeikaku-tebiki.pd

研修を進めるために　園内研修進行のポイント

ワーク別に参照

ワーク 1

事前のワークが必要です。また、ほかのワークでもあらかじめテキストを読んでから参加できるようにすると、話し合いの時間が多くなり理解が深まります。

ワーク 5

ワークに入る際には、特別支援教育コーディネーターが、あらかじめ障害の種類や子供の姿、保護者との連携等についての必要な情報を整理し、共通理解をしておきます。

ワーク 10-b ～ 14

グループワークは、あらかじめグループの人数やグループ数を想定したうえで柔軟に時間を変えましょう。

ワーク 11，12，13

事例を読み、補足で必要だと思われる情報があれば適宜追加しましょう。また、当該事例と似た幼児がいる担任を中心としてワークをすすめるのも良いでしょう。その際、個人ワーク・グループワークのそれぞれの所要時間の目安は 40 分程度です。

ワーク 16

振り返りのプロセスを、ワークを通して辿っていくイメージです。正解を導き出そうとしたり、無理に項目を埋めようとしたりせずに、保育者の思いを整理したり、子供の思いに寄り添ったりすることを大切にします。各項目のポイントを、青い吹き出し中に示しています。

グループワークで行う際は、予め記入例を共有しておくと、進める際にスムーズになります。また、①のエピソード記録は予め作成しておくとよいです。②、③は個人ワークで行います。④以降はグループで導き出していくのもよいでしょう。研修後日、⑧を共有する時間をとることで、より指導の改善に繋がっていくでしょう。

ワーク 17

記入例を参照して、実際の週案の記録などから指導の振り返りや改善の方法を順を追って記入しましょう。実際の保育場面や対象児を決めて行いましょう。個人ワークですが、保育場面を共有している保育者・支援員などとグループワークとして一緒に考えて具体策を導き出していくと、より効果的です。C：評価の部分では、「対象児の思いに沿った支援ができているか？」という視点で考えてみるとよいでしょう。

第４章

家族支援

「家族支援」の活用に当たって

１．家族支援について考えよう

２．家族支援をテーマに園内研修をしてみよう

３．早期発見　～気付きと共有～　を考えよう

４．早期支援　～支援のはじめの一歩～　を考えよう

５．相談支援を考えよう

６．関係機関との連携について考えよう

７．「家族支援」のまとめ

研修を進めるために　園内研修進行のポイント

家族支援　ワーク一覧

1．家族支援について考えよう

（1）家族支援とは何か
（2）家族支援を考えるうえで大切なこと

2．家族支援をテーマに園内研修をしてみよう

（1）家族支援に向けた事例検討の意義
（2）家族支援のための研修方法の工夫

3．早期発見　～気付きと共有～　を考えよう

（1）家庭と園、両方の子供の姿を捉える
【ワーク1】保護者が家庭で感じている不安を受け止める（グループワーク 70 ～ 80 分）
（2）子供の育ちに必要なことを考え合う
【ワーク2】教職員の気付きを保護者と共有する（グループワーク 70 ～ 80 分）

4．早期支援　～支援のはじめの一歩～　を考えよう

（1）保護者への早期支援の在り方を考える
【ワーク3】疲弊する保護者に寄り添う　（個別 15 分、グループワーク 45 分）
（2）個に応じた関わりのヒントを提供する

5．相談支援を考えよう

（1）分かち合うための関係づくりの難しさ
（2）就学に向けた制度の活用
【ワーク4】就学に不安を抱える保護者と共に歩む（グループワーク 50 ～ 60 分）

6．関係機関との連携について考えよう

（1）主な関係機関と役割
（2）地域資源の活用
【ワーク5】地域の資源マップ作り（グループワーク 40 ～ 60 分、園全体 15 ～ 20 分）
（3）支援の必要な親子への情報提供
【ワーク6】園内での情報提供の工夫（グループワーク 30 ～ 45 分、園全体 10 分）

「家族支援」の活用に当たって

・「家族支援」の目的

第４章では、家族支援に関して３つのことを学ぶことを目的としています。１点目は、現代社会は、子供を巡って多様な悩みや困難を抱える保護者や家族が多く見られます。保護者や家族がもつ多様なニーズを知り、家族支援への理解を深めることです。２点目は、保護者に寄り添った適切な支援に繋げるために、周囲の関係諸機関の存在や役割を知り、幼稚園等との連携の在り方を学ぶことです。３点目は、保護者や家族と共に子供の育ちを保障していく支援を目指していくことです。

・「家族支援」の構成と活用

第４章は、大きく３つの内容から構成しています。園の実態や研修参加者のニーズに沿って、ワークの順番や時間配分などに配慮して進めてください。

はじめに「家族支援」とは何かについて学びたいです

P124～P125
「１．家族支援について考えよう」で、家族支援とは何か、家族支援を考えるうえで大切なことを解説しています。

「事例」に関心があるのですが…

P129～P155
事例は、「早期発見」「早期支援」「相談支援」について特徴的なケースを紹介しています。
ワークを用いた研修方法も提案しています。

外部の「関係機関」のこともっと知りたいのですが…

P156～P161
地域のマップ作りや、連携を考えるワークシートも活用しましょう。

・活用に当たっての留意事項

１点目は、「１．家族支援について考えよう」と「２．家族支援をテーマに園内研修をしてみよう」を読んでから始めましょう。「家族支援とは何か」や「家族支援を考えるうえで大切なこと」など基本事項を理解することができます。また、事前に目を通すことで「家族支援に向けた事例検討の意義」や「家族支援のための研修方法の工夫」を知り、より有効な園内研修に繋がります。

２点目は、本章では、６つのワークを掲載しています。園内研修進行役の方は、園の実態等に合わせて選んでください。いずれのワークも取り組む前には読んで、趣旨や進め方を確認してから実施しましょう。✿のマークが付いているワークは、本章末に解説があります。

３点目は、本章では、ワークシートを各ワークにそれぞれに付けています。コピーをしての使用も可能です。園の実際の事例を検討する際にも役立ててみましょう。

第４章

家族支援

１．家族支援について考えよう

（１）家族支援とは何か

子供が健全に成長し様々な課題を乗り越えていくために、家族の理解と支えは最も欠かせないものです。しかし、就学前は子育て繁忙期であり、保護者は常に子供が健全に発達し成長しているのか、不安と焦りで心が揺れています。また、生活全般に重大な問題を抱え、子育てに注力できない家族もいます。教職員は、保育を通じて子供の成長を助けるだけでなく、家族が前向きに子育てに向き合えるよう支える必要があるのです。そのため家族支援は、以下の３つの視点で展開していく必要があります。

①早期発見	子供のもつ特性や困難さをできる限り早期に発見し、適切な支援に繋げていくこと
②早期支援	その子供の特性や家族のニーズを踏まえた適切な支援をなるべく早期に行い、つまずきや困難を最小限にしていくこと
③相談支援	子育ての大変さを理解し、一緒に子供を育てていくという意識をもって家族を支えること

家族支援を実践する際に、教職員が留意することがあります。一つは、家族支援は「子供の幸せを実現すること」が主目的であるということです。家族のメンバーそれぞれに異なる願いやニーズがありますが、「主役はあくまで子供である」ということを忘れないようにしましょう。二つめは、家族に「こうすべき」といろいろ要請するのではなく、家族の思いや苦しさに寄り添い、ともに解決しようとする「横並びの関係」を大切にすることです。家庭や子育ての問題は大変ナイーブな問題であり、家族にとってはできるだけ知られたくない話題もあるでしょう。家族が安心して教職員に相談できるような信頼関係をつくるために、教職員が関わりを工夫していく必要があります。

（２）家族支援を考えるうえで大切なこと

特別支援教育は様々な形で推進されていますが、共生社会の実現には多くの課題を残しています。そのような中で、保護者が子供の発達に何らかの違和感を覚えたり、「障害」の疑いを報告されたりしたとしても、すぐさま専門機関に相談できる人はそれほど多くはないでしょう。「障

害」という言葉は、それほど保護者にとって衝撃的であり、一般社会から疎外されたような気持ちにさせるものなのです。

また、保護者が子供の育てにくさに悩み、「誰かに相談したい」と感じたとしても、他の家族や親戚がそれを認めないという場合もあります。私たちは、目の前にいる保護者の示す言動や態度から、「子供の実態を認められない親」「話し合いに応じてくれない困った親」と捉えてしまいがちです。そのような言動の裏には、夫婦間または義理の家族との不和など、現家族が抱える問題が隠れていることがあります。また貧困や虐待など、保護者自身の子供時代の負の体験が影響している場合もあります。「困った親」と思われがちなその人は、人生や生活に思い悩み苦しんでいる一人の人間であり、家族や社会から孤立し「助けを求めている人」なのかもしれません。家族支援には、保護者や家族が示す言動に振り回されることなく、こうした事情や背景を読み取ろうとする視点が必要です。

第４章で扱う「家族支援」とは、家族全般への支援ではなく、あくまでその家族の窓口として教職員とやりとりをする保護者を対象としています。しかし本書では、今やりとりしている保護者の姿から、その人を取り巻く家族事情に目を向けて支援するという点で、従来の「保護者支援」と区別して「家族支援」としています。教職員と保護者が、支援対象の子供の健全な成長や幸せに向けて、ともに協力し合う関係になるために、教職員が関わりを工夫することが大切です。ここでは、教職員と主にやりとりをする保護者が、どのような家族環境にいるのか、他の家族とどのような関係なのかを捉えながら、その保護者を理解する視点を学びます。

子供の幸せを目指した家族支援

**目の前の保護者の姿にとらわれず、
その人を取り巻く家族事情に目を向けましょう**

複雑な背景や事情を抱えている家族であるほど、その代表者としてやりとりをする保護者と園との信頼関係づくりには相当な時間と労力が必要になるでしょう。また保護者にとっては「担任」「園長」という立場の人だからこそ話しにくいこと、冷静になれないことがあります。家族支援は、担任一人ではなく園全体で取り組む姿勢が必要です。園内で常に情報を共有し、必要な役割分担をしながら進めていくことが大事です

2．家族支援をテーマに園内研修をしてみよう

（1）家族支援に向けた事例検討の意義

子供と同様に、家族についても「〇〇の事例には××が有効」といったハウツーはありません。家族理解のポイントや支援技術をまとめた書籍やリーフレットは、家族を理解するためのヒントになりますが、答えを教えてくれるものではないのです。一見抱えている問題が同じに見えても、家族ごとにそれぞれ異なる歴史や背景を抱えています。よって、家族にも個別の理解が必要になるのです。１つの家族の事例を取り上げ話し合う研修を繰り返すことで、家族を理解するために必要な情報が特定されるようになります。そして事例から学んだ支援のノウハウは、他の事例やこれから出会う家族にも活用できる技術になります。

また、家族理解を目的とした事例検討会を開催する際に重要なことは、子供の情報だけでなく、家族構成や生活形態、家族間の関係性に関する情報を集めることです。第４章では、その見本となる資料を添付していますので、家族の事例検討にはどのような情報が必要であるか、参考にしてください。「3．早期発見～気付きと共有～ を考えよう」では、家族支援のポイントとなる考え方を学べるよう、保育現場でよくある事例を選出しています。各事例の背景や支援の経過が分かる情報を掲載していますので、添付を活用しながら事例検討会を進めてみましょう。最終的には、この枠組みを活用しながら、園内の子供の家族事例を対象にして事例検討を進めていけるとよいでしょう。なお、事例検討会は、個人で実施するものもありますが、基本的にグループワーク形式で行います。意見交換が活発になるよう、１グループ３～５人程度で実施しましょう。

（2）家族支援のための研修方法の工夫

事例検討会には様々な方法があります。ここでは、ロールプレイ、ワールドカフェ、KJ 法、マップ作りや表の作成などの研修方法を紹介します。研修目的や参加者のニーズによっては、これらの方法を適宜選択し活用してください。また、参加者の自発性や積極性を引き出すためには、雰囲気づくりに努めることも大切です。「意見を言わなければならない」という強制力が働いたり、上下関係が強く意識されたりすると、参加者の緊張感が高まり、新たな発想や積極的な意見が生まれにくくなります。じゃんけんやくじ引きなどのゲーム性を取り入れる、BGM を流す、研修会場に花やマスコットを設置するなど環境面の工夫をするだけでも、柔らかな雰囲気となり活発な意見交換に役立つでしょう。

ロールプレイ

実際に起こりえる家族とのやりとり場面を想定し、参加者が教職員役や保護者役などの役割を演じることで、関わり方の実践力を磨く研修方法です。教職員役を演じると、自分の関わり方のクセに気が付きます。保護者役を演じると、これまでの保護者の気持ちに気付くことができ、感受性や共感性を養うことができます。実際に体を動かしながら学べるところが特徴です。

【実施手順】

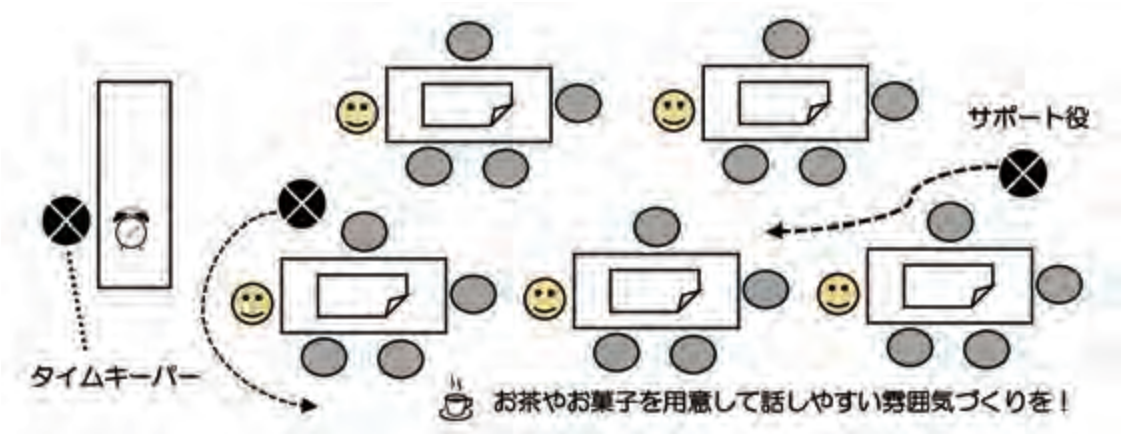
・役割分担（教職員役・保護者役・タイムキーパー）を決め、話し合う題材（内容・条件・状況など）について確認する
・実際の面談場面に近い状況を再現し、実演を始める
・教職員役、保護者役がそれぞれの立場で感じたこと、見ている側が感じたことを伝え合う
・研修のタイムキーパーが、それぞれのよかった点や課題などをまとめる

ワールドカフェ

少人数ずつに分かれて席に着き、気軽に対話しながら協議する対話型の事例検討方法です。会議のような堅苦しさがなく、カフェでおしゃべりしているような雰囲気で話し合いができる点がメリットです。これまでやりとりが少なかった教職員同士が関わる機会にもなるため、園内のコミュニケーションを深めることができます。

【実施手順】

・４～５名を１組としたテーブルを複数用意し、模造紙やペンを設置する
・各テーブルに事例提供者（☺印）が１名ずつ座り、事例の概要を話す
・１回の協議時間を 20 ～ 30 分間ほどで区切り、関わり方や支援方法のアイディアを書き込んで話し合う
・タイムキーパーが終わり時間を知らせた後、参加者は事例提供者を残して別のテーブルに移り次の事例の協議を行う
・各グループから一人、あるいは代表者を指名してアイディアを発表する



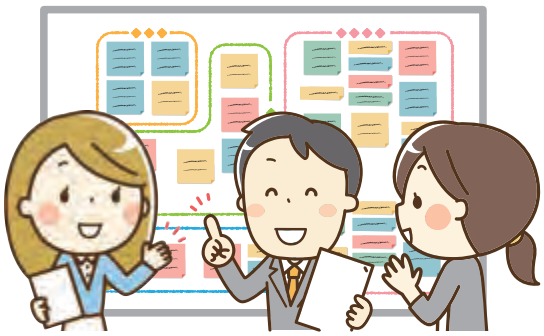
※時間を計測する**タイムキーパー**や、各テーブルを回り話し合いが進んでいないテーブに助言をしたり参加者の発言を促したり、話の流れを整理したりする**サポート役（ファシリテーター）**を設定したりすると、短時間でよい話し合いができます。

KJ 法

参加者が発想したアイディアや思い付き、事例理解のための情報などを整理して、支援の概要を組み立てる方法です。大規模園など参加者が多い状況で実施しやすいワールドカフェに対して、参加者が少ない場合でも実施しやすいのが特徴です。付箋、ペン、模造紙など、簡単に用意できるものだけで手軽に始められるのも魅力で、やり方を覚えるとさらに効率よく情報の整理ができるようになります。

【実施手順】

- ３名以上でグループをつくり、模造紙（ホワイトボード）、付箋、ペンを用意する
- 作業時間を 20 ～ 30 分ほど設け、事例を理解するための情報、支援のアイディアなど、思い付いたこと１つにつき付箋１枚、といったように１つずつ書き出す
- 模造紙（ホワイトボード）に検討すべき内容を記したカテゴリ（実態、支援方法など）を設け、アイディアの書かれた付箋をカテゴリごとに分類していく
- どのカテゴリにも属さない付箋は、無理にどこかに含めようとせず、別のスペースに固めておく
- 参加者で全体を眺め、各カテゴリのポイントとなる部分をまとめ発表する



アイディアを付箋に書き出す時には、互いに書いているものを見せ合い、会話しながら進めると、話し合いが活発になります

マップ作り・表の作成

特別な支援が必要な子供やその家族が利用できる様々な関係機関や社会的サービスが存在します。しかしこうした関係機関にはどのような種類があるのか、地域にどのくらい設置されているのか、意外に知らないことが多いものです。子育てに悩む家族のそれぞれのニーズにあったサービスを提供する関係機関を紹介するために、地域にある関係機関の場所や提供するサービス内容を整理しておくことは、家族支援を行ううえでとても役に立ちます。「6．関係機関との連携について考えよう」では、このような地域で利用できる関係機関の情報をまとめるための「マップ作り」や「表の作成」を提案しています。

3．早期発見　～気付きと共有～　を考えよう

（1）家庭と園、両方の子供の姿を捉える

【ワーク1】保護者が家庭で感じている不安を受け止める（グループワーク　70～80分）

ワークを始めるに当たり、まずは、「家族支援」を意識して、事例の前半部分を読んでみましょう。事例は、A児の母親が、家庭で困っていることを担任に話し、園と情報を共有してA児への関わり方を考えていったものです。

○家族構成：父親、母親、姉、本（A）児

○家庭状況

・父親、母親ともに就労。A児は、1歳児の頃から保育所へ通所。

・引っ越しに伴い、4歳児の学年で、預かり保育のある幼稚園に転園。

・姉は、小学校2年生。マイペースでのんびりしている。

・姉とA児は、ケンカをすることもあるが、A児の気持ちの表し方が激しいため、姉が仕方ないと諦めたり、関わりを避けたりすることが多い。時々は、姉も我慢できなくなり、激しいケンカとなる。

○A児について

・A児は、4歳児としての入園当初より活発、好奇心旺盛であった。担任の話をよく理解し、遊びや活動を楽しむ姿が見られた。時折、友達に口調が強くなり、トラブルになることがあった。担任はA児の思いを受け止めつつ、友達への話し方や言葉の使い方を援助していた。

○保護者について

・園でのA児の姿については、父親や母親にエピソードを交えて担任から伝えた。父親や母親は、友達とのトラブルの話を含め、担任の話に対して、頷きながら好意的に聞いていた。

4歳児の個人面談にて

・入園して1カ月程度たった個人面談で、母親より、家庭で困っているとの話が出た。

保護者より

◆A児が、家庭で言うことを聞かない。外出すると、必ずと言っていいほど、外で泣き叫び、寝転がってでも自分の要求を通そうとする。家の中でも、機嫌よく過ごしている時はいいが、何かでスイッチが入ると、途端に怒りまくる。姉との関係も心配である。

◆以前は、父親が叱ると少し収まったが、最近は、父親でも母親でも収まりがきかなくなってきた。飴が好きなので、「怒るのをやめるなら飴をあげる」と言い、飴を舐めさせると段々収まっていく。

◆3歳児の頃、過ごした園では、友達とのトラブルが多かったり、手が出ていたりしたと聞いている。

◆4歳児になり、3歳児の頃に比べるとそれほどのトラブルはないようだが、大丈夫か。環境が変わって、本人も成長して…ならよいが、慣れてきたら、友達とのトラブルが増えるかもしれないと心配している。

担任から

◇家庭でのことを聞かせていただいて、ありがたい。園内では、既に話しているように、トラブルはあってもそこまでの激しさは感じていない。

◇Ａ児は、１日の中で、園と家庭との両方で過ごすので、今後も情報を共有していきたい。

◇Ａ児が家庭で穏やかに過ごせるように、一緒に考えたい。

ワークをやってみましょう

事例の前半部分をもとに、次ページの「ワークシート１」を使って家族支援について考えてみましょう。

用意する物

ワークシート１、鉛筆、色ペンまたは付箋、ラインマーカー

ワーク１の手順

（事例の前半部分を読んでから始めましょう）

① 事例の前半部分の内容から、家族支援という観点で、話し合いたいこと、考えたいことを鉛筆でシートに記入しましょう。（20 分）

【シートの書き方】

・**ア** …対象となる子供の「ハッピー」とは何か。
「ハッピー」とは、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ちと考える。

・**イウ**…家族支援を進めていくに当たり、何をねらうか。誰に（イ）、何をしていくとよいか（ウ）、もしくは、誰が（イ）、どうなるとよいか（ウ）。

・**エ** …支援をする際の課題や困難さは何か。ウがうまくいかない理由は何か。

・**オ** …解決策や支援策、その後の見通し。いくつか考えたことを箇条書きにしてもよいし、段階を追って考えてもよい。

② 記入した内容を発表し合い、共感したこと、疑問に思ったこと、気付いたことを話し合いましょう。他の人の意見は、自分のシートに、色ペンで書き込んだり、付箋を貼ってメモしたりしましょう。（20 分）

③ 話し合いを一旦止め、事例の後半部分、事例理解と支援の視点を読みましょう。新たに気付いたこと、考えたこと等があれば、メモしましょう。（5 ～ 10 分）

④ 話し合いを再開しましょう。必要に応じて③でメモしたことも話題にしましょう。（15 ～20 分）

⑤ まとめとして、自分の園、自分の学級の家族支援に生かせそうな部分にラインマーカーで線を引き（2 ～ 3 分）、発表し合いましょう。（7 ～ 8 分）

ワークシート１　～保護者が家庭で感じている不安を受け止める～

A児の　ハッピー　を　目指して

ア

「ハッピー」は、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ち

そのために…　　*(記載部分は、記入例です)*

イ　父　母　姉　A児 その他（　　）	イ　父　母　姉　A児 その他（　　）	イ　父　母　姉　A児 その他（　　）
ウ （例）*A児の感情が昂る理由やきっかけが分かるといい。*		
課題や困難さとして…	課題や困難さとして…	課題や困難さとして…
エ （例）*A児の姿が園と家庭とでやや違う。担任も保護者もA児の実態を捉えきれていない。*		
解決するために…	解決するために…	解決するために…
オ ○（例）*A児の情報を集める。担任が母親や父親に声を掛け、家庭での話を聞く。また、保護者に園での様子を話す。*		

ワークシート記入後、または話し合いの際に取り上げてみましょう

個人面談後

・担任は、折に触れ、保護者と話す機会を積み重ねた。４歳児当時は、友達関係に援助は必要なものの、そこまで激しい様子は見られなかったため、主に家庭での対応を一緒に考えることが多かった。

・担任が改めてＡ児の姿をよく見ると、登園後や活動の合間に、保育室の「一日の流れ」の掲示を確認していること、集団の中でのルールや約束については守ろうとする気持ちが強いことなど、新たに気付いた姿があった。

・担任は、園での環境の構成や援助の工夫をもとに、家庭でも行えそうなことを母親に打診し、母親は、できそうなことから取り入れていった。

例えば

外出前、あらかじめＡ児に予定を伝える

外出前、守ってほしい約束（１つか２つ）を決め、なぜその約束が大切か確認する

約束が守れない時はどうするか、Ａ児とともに相談しておく

望ましくない姿に対して、父親と母親でどこまでをよしとするか共通にしておく

家族がそれぞれ楽しく穏やかに過ごせている時の関わりを大切にする

父親とＡ児、母親と姉など、ペアで過ごしてみる機会をつくる　　など

・時には、園長や担任以外の教職員が保護者の話し相手となり、子育ての大変さについて共感したり、Ａ児の成長や園で見せるよさを伝えたりした。

・Ａ児は、預かり保育の時間、人数が少なくなると、家での話をすることがあった。楽しかった出来事だけでなく、保護者への不満を話すこともあったため、担任やほかの教職員がゆっくりと話を聞きながら、気持ちを受け止めたり、時には保護者の気持ちを想像して代弁したりした。

そして、話題によっては、Ａ児の気持ちについて、担任や他の教職員の読み取りを交えながらそのことを保護者に伝え、Ａ児なりの、また、４歳児なりの考え方や気持ちに保護者が触れる機会となるようにした。

４歳児半ばから終わりにかけて

・母親が、少しずつ、家庭での激しさが収まってきたと話すことが増えた。保護者とＡ児との交渉が成立するようになったり、「前はこういう時に泣いていたよね」とＡ児自身が自分を振り返るようになったりしてきた、と母親がＡ児の変容を話した。

５歳児、修了時

・５歳児になると、友達との言い合いでＡ児の口調の強さが増したが、担任が援助を重ねていくと、次第によいことと悪いことの判断がつくようになり、トラブルを仲裁する側にまわることが増えた。

・修了時、母親は、家庭のことを相談できてよかった、あのままでは、この子は自分とは相性が悪いとしか思えなかったし、「こうしてみよう」と策を練ることも辛くて、したくなかった、

と話した。また一緒に考えてくれたり、「どうですか？」と気に掛けてくれたりしてありがたかったと話した。

事例理解と支援の視点

保護者の不安に寄り添って…

「親の言うことを聞かない」「早く起きなくて困る」「食事に時間がかかる」など、保護者の悩みを聞く機会があります。しつけの問題として片付けるのは、一方的過ぎるかもしれません。家庭と園とで違う姿を見せる子供は少なからずいます。家庭と園、どちらの姿もその子の姿として知っていく、受け止めていく姿勢をもちましょう。

修了時、A児の母親が話していたように、保護者からの相談は、相当な困難があってのものである場合があります。教職員からすると「○歳児にはよくある姿」「○児の性格だとそういうこともあるかもしれない」など、成長の一過程と思えるかもしれませんが、日々、子供と向き合っている保護者にとっては、大きな心配事です。

保護者からの相談を真摯に受け止め、共に考え合えるようにしていきましょう。

保護者にとって可能なことから…

事例では、担任が園での環境構成や援助の工夫から、家庭で取り入れられそうな策を提案し、保護者は、できそうなことから家庭での関わりに取り入れていきました。

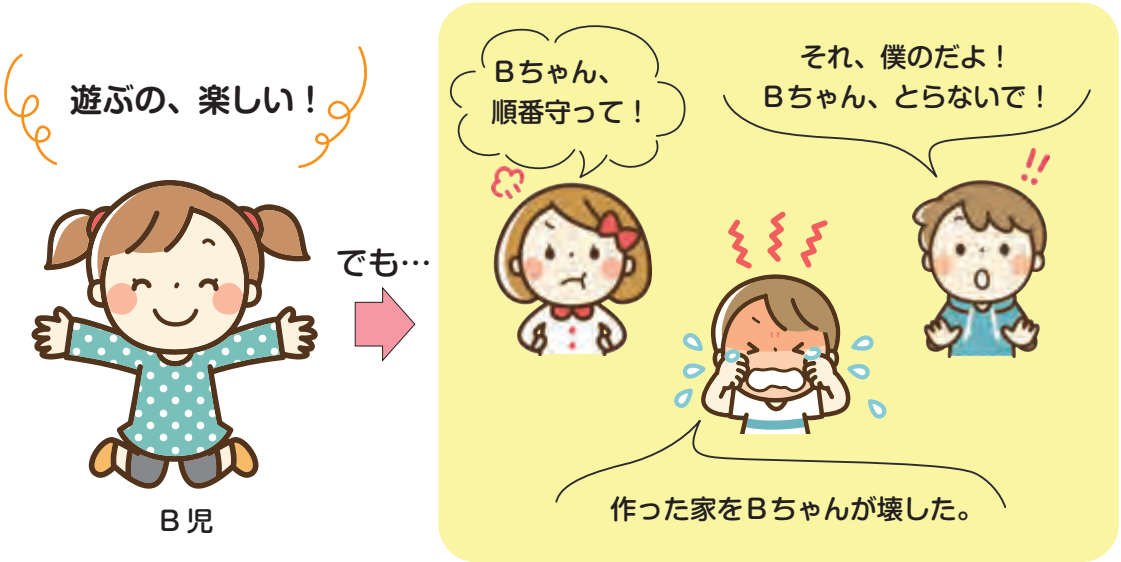
家庭での子供への関わりは、教職員が代わってできることではありません。保護者が実践することになります。しかし、家事や仕事で忙しい、兄姉や弟妹がいて難しいなどの理由から、家庭生活で何か新たに取り入れること、これまでとやり方を変えていくことは簡単ではありません。困難をもっている保護者と一緒に考えたり、提案したりしつつ、できることから、少しずつでも始められるように、また、一歩でも踏み出せたことを共に喜び、その先にそれぞれの期待を理解していけるような関わりを心掛けていきましょう。

一方、園としてできることを探っていくことも大切です。事例では、相談を受けていた者以外の園長や担任が保護者と話をしたり、A児のつぶやきやそこから読み取れる気持ちを話したりしています。保護者と対面で向き合うだけではなく、隣同士で子供を見つめ、一緒に育てていきたいという雰囲気を園全体で醸し出したいものです。

（2）子供の育ちに必要なことを考え合う

【ワーク2】教職員の気付きを保護者と共有する　（グループワーク　70～80分）

はじめに、事例を読んでみましょう。ワーク2で取り上げる事例は、B児について、担任が母親にB児の姿や園での援助、今後の見通しを繰り返し伝え、少しずつ、B児に今必要なことを専門家の話も交えて共有していったものです。



・B児は、様々なことに興味をもち、意欲的に遊んでいる。しかし、遊びの中で楽しさが増してくるとトラブルになることが多い。
・友達には親しみを感じて関わるが、距離感が近く、楽しくなると相手に抱き付いたり、嫌なことがあると手が出たりすることがある。
・集まりの際には、自分の気になることを話し出したり、隣に座る友達にちょっかいを出したりする。担任の話が耳に入らず、全体への指示で動けないことが多い。
・文字や数字への理解は進んでおり、遊びの中で、読んだり書いたりし始めている。

３歳の時、担任がB児の成長している面とともに、課題と思われる面や園での援助を伝えると…

父親も小さい頃、同じような感じだったと言っていた。

**遊びたい気持ちや人と関わりたい気持ちが強い子。
でも、まだうまく関われないからトラブルになる。
家でも言い聞かせる。**

B児母

担任

・母親は、B児について、淡々と話すことが多い。園生活では「人とうまくやってもらいたい。トラブルはないほうがいい」と願っている。一方、母親自身がB児について困っている素振りはあまり見えない。「まだ子供だから。仕方ない」と口にすることがある。４歳になり、他児が成長してきた分、B児の課題と思われる面が顕著になってきた。担任は、様々な場面で母親と話す機会をつくり、B児の姿や園での援助を伝えながら、今後の見通しについても共有できるようにする。

担任

これからも、活動の際の視覚教材や言葉掛けのタイミング、B児が大きく動きたい時の場の作り替えなどを工夫して、楽しく過ごせるようにしていく。
友達が大好きなB児の気持ちを十分認めながら、互いに心地よい距離感を意識できるようにしていく。「○児を触らなくても、隣で一緒に絵本を見られたね」「腕の長さくらい相手と離れていると、しっかり話ができるね」等、分かりやすく具体的に伝えていく。

B児が楽しく過ごせるようになるといい、とは思う。

B児母

担任

私自身、援助の方法に悩むことがある。B児にとって必要な援助をもっと探りたい。
巡回相談の際に、B児のことを話してもいいか？

まあ…、B児のことを一緒に考えてもらえるのはありがたい。成長している面もあるだろうが、まだまだ…という面もあるだろうから…。

B児母

・担任は、巡回相談での話を母親に伝えた。母親は、担任の話を聞き、親子の関わりでできそうなことは、取り入れてみたい素振りを見せる。
・巡回相談をもとにした話を２回程重ねた後、担任は、巡回相談に来てくれる専門家は教育センターの職員であることを改めて伝えた。そして、困ったことがある時には、園を通してもよいし、センターに直接連絡をしてもよい、と話した。母親は、直接連絡をとることは気が進まない様子であった。「園を通して、B児に必要なことを聞いていきたい」と言う。

グループワークをやってみましょう　（60 分）

次ページの「ワークシート２」を使って家族支援について考えてみましょう。

用意する物

ワークシート２、鉛筆、色ペンまたは付箋、ラインマーカー

ワーク２の手順

（事例を読んでから始めましょう）

① 事例の内容から、家族支援という観点で、話し合いたいこと、考えたいことを鉛筆でシートに記入しましょう。（20 分）

【シートの書き方】

・**ア**　…対象となる子供の「ハッピー」とは何か。
「ハッピー」とは、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ちと考える。

・**イウ**…家族支援を進めていくに当たり、何をねらうか。誰に（イ）、何をしていくとよいか（ウ）、もしくは、誰が（イ）、どうなるとよいか（ウ）。

・**エ**　…支援をする際の課題や困難さは何か。ウがうまくいかない理由は何か。

・**オ**　…解決策や支援策、その後の見通し。いくつか考えたことを箇条書きにしてもよいし、段階を追って考えてもよい。

② 記入した内容を発表し合い、共感したこと、疑問に思ったこと、気付いたことを話し合いましょう。他の人の意見は、自分のシートに、色ペンで書き込んだり、付箋を貼ってメモしたりしましょう。（20 分）

③ 話し合いを一旦止め、事例理解と支援の視点を読みましょう。新たに気付いたこと、考えたこと等があれば、メモしましょう。（5 ～ 10 分）

④ 話し合いを再開しましょう。必要に応じて③でメモしたことも話題にしましょう。（15 ～ 20 分）

⑤ まとめとして、自分の園、自分の学級の家族支援に生かせそうな部分にラインマーカーで線を引き（2 ～ 3 分）、発表し合いましょう。（7 ～ 8 分）

ワークシート２　～教職員の気付きを保護者と共有する～

B児の　ハッピー　を　目指して

ア

「ハッピー」は、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ち

そのために…　　*（記載部分は、記入例です）*

イ　(母)　父　B児 教育センター　その他（　　）	イ　母　父　B児 教育センター　その他（　　）	イ　母　父　B児 教育センター　その他（　　）
ウ （例）*B児の成長や課題を園と共有できるといい。*		
課題や困難さとして…	課題や困難さとして…	課題や困難さとして…
エ （例）*母親のB児への関心や思いが把握しづらい。*		
解決するために…	解決するために…	解決するために…
オ ○（例）*母親との関係づくりに努める。B児のエピソード（困った場面以外）を伝えたり、B児のことでない話題を話したりする機会をつくる。*		

ワークシート記入後や、または話し合いの際に取り上げてみましょう

事例理解と支援の視点

成長を楽しみに、今、できることを…

担任は、集団に関わり、多くの子供の姿を見ていますが、保護者が見ているのは、我が子の姿が中心です。また、集団生活と家庭生活では、子供に求めることが異なり、それによって関わる大人の見方も異なる場合があります。

そのため、担任が、集団の中での子供の困っていることや成長を期待したい面（＝現在の課題）を伝えても、保護者にとっては、それほどピンとこないという事例が見受けられます。

Ｂ児の母親のように、「子供って、みんなそういうところがあるのでは？」「これから成長していくはずだから…」という捉え方の保護者もいます。その捉え方が間違っているわけではありません。担任は、子供の発達について伝えつつ、成長していく姿を一緒に楽しみに見ていきましょう、成長のために必要で効果的な援助があれば取り入れていきましょう、というメッセージを保護者に伝えていきたいものです。

おしゃべりや話をする機会を重ねて…

成長しているところ、課題と言えるところなど、園と家庭とで子供の姿を共有していくには、担任と保護者のコミュニケーションが大切です。

保護者にとって、○○先生は、我が子の成長をよく知ってくれている、我が子の姿をしっかり見て、理解してくれている、と感じられることが担任への信頼に繋がっていきます。事例の４歳児の担任のように、様々な機会に少しずつでも話をすることが積み重ねられると、お互いに話しやすくなっていくかもしれません。時には、保育と関係のない話題でのおしゃべりをすることも、よりよい関係づくりにとって必要なことです。

保護者によっては、我が子が聞いているところで、我が子の話をしたくない、他の保護者の視線が気になるなど、担任と話す際に気になることがある方もいます。保護者が安心して話を聞いたり、思いを述べたりできる時間や空間を探っていきましょう。

保護者の気持ちの安定を大切に…

事例の４歳児の担任は、巡回相談でＢ児の話をしてよいか、母親に聞いています。担任と話がしやすくなった母親ですが、園外の機関と自分が直接関わることについては、やや慎重な態度が感じられます。今後、Ｂ児や他児の成長につれ、新たな課題が出てきたり、保護者の悩みや困り事が出てきたりした際に、専門家との連携は大切でしょう。まずは、事例の担任のように、保護者が安心して話せる存在が間に入って、関係機関との必要な情報を繋ぎ、共有していくことを考えていきましょう。

4．早期支援　～支援のはじめの一歩～　を考えよう

（1）保護者への早期支援の在り方を考える

【ワーク3】疲弊する保護者に寄り添う　（個別 15 分、グループワーク 45 分）

ワークを始める前に、まずは、事例を読んでみましょう。

この事例には、入園前、子育てに悩むC児の母親が登場します。園は、母親に施設を紹介するなど、支援へ踏み出したものの、支援は途中で途切れ、入園を迎えます。保護者への早期支援の在り方を考えてみましょう。

※ここで言う「早期支援」とは：子供の発達や保護者自身の子育ての悩みなど、保護者や家族が何らかの課題や困難を抱えている場合、教職員が気付いた時点で出来るだけ早く、適切な支援に繋げることを意味しています。

○家族構成：父、母、姉、叔母、本（C）児の 5 人家族

○C児：3 歳男児、早生まれ

○家庭状況

・母親は、C児の成長を心配しているが受験を控える小学校高学年の姉に手を取られる。

・C児は姉によく手を出す。姉は年齢が離れていることもあり我慢している。父親は仕事に忙しく、子育ては母親に任されている。

○母親について

・入園前、園が開催する未就園児向けの催しにC児とともに数回参加していた。その際、母親がC児との関わりに悩む姿があったため、園長が話を聞き、入園前から通え、子育てについても相談できる場として、近隣の施設を紹介する。その後、「施設に利用申し込みをしたが、空きがないと言われた」と母親からの連絡が園にあった。

・入園直後も、かなりC児の様子を心配しているようだったが、母親が自分から、園に悩みを伝えに来ることはなかった。担任が、園でのC児の様子を連絡帳で知らせていたが、短い言葉で謝意が表現されるにとどまっていた。

・入園して 2 週間たった頃、玄関で園長が声を掛け、最近の園での様子を伝えたところ、母親から「迷惑をかけて申し訳ない」という言葉と共に、入園前の情報が伝えられた。園が紹介した関係機関は空きが出なかったので、他の機関にも申し込んだが、そこも空きがなく、待っているうちに入園を迎えたということであった。

入園前、入園直後

・入園前の園の催しに親子で参加した際は、担任の話を聞くことができず、高い所へ登る、いきなり他児をぶつ、つねるなどの姿が見られた。

・入園直後は、登園時に泣いて、母親と離れず、担任が抱くと暴れて、「ママー」を連呼していた。泣かなくなってからも、保育室へは行かず、しばらく職員室でフリーの教職員と絵本を見るなどして 1 対 1 で過ごしていた。担任に体を密着させることを好んだ。

・言葉が遅く、意思の疎通が難しかったが、「お・く・つ・は・く」とゆっくりではあるが自分の意思を言葉で示せるようになった頃から、担任とはコミュニケーションが取りやすくなった。

１学期末から２学期初め

【生活習慣】

・時間はかかるものの、毎朝、上履きに履き替える、荷物の整理をするなど、必要なことは担任に促されながらも自分でするようになった。
・おむつが取れ少し自信がついたようだったが、午後は、大泣きして寝入ることもあった。

【行動・友達関係・遊び】

・２学期になり、多くの時間を保育室で過ごすようになると、高い所（ピアノ･ロッカー等）に上る、そこからジャンプする、物を投げる等の行動が目立つようになった。
・ゆっくりと丁寧なやりとりをすれば、「嫌だった」「分からない」など、言葉で気持ちを表現したり、他者の言うことを理解したり、困ると学級担任を求めたりするようになった。
・近くにいる子供を突然押す、蹴飛ばす、つねるなどが見られた。
・友達の遊びを見て、一緒に三輪車やブロックなどで遊ぶようになった。
・絵本は変わらずに好きで、特に担任と１対１の時はかなり集中する姿が見られた。

２学期の母親

【他児の保護者との関係】

・クラス全体が、３歳児なりに落ち着きを見せ、友達関係ができてくる中で、Ｃ児から突然理由もないのに押されたりつねられたりした子供が出てきた。その子供が登降園の時に、直接Ｃ児の母親に、「Ｃちゃんがぶったんだよ」「何もしてないのに押された。痛かった」などと訴える姿が時折見られるようになった。そのため、Ｃ児の母親は、他児の保護者に謝ることが多くなり、困惑した姿を見せるようになった。
・けがやトラブルについては、担任がＣ児の母親と相手の保護者双方に、状況を説明していた。その回数も多くなった。

【家庭の様子と母親の困惑】

・Ｃ児は家庭でも高い所に上ったり、物を投げたりすることがあり、また、受験を控えた姉や叔母がＣ児につねられたり、ぶたれたりしていることが分かった。
・母親は、「叱っても言うことを聞かない…！」「どうしたらよいのか…？」「お姉ちゃんは我慢してくれているけど…」と困惑し、疲弊する様子が見られた。

グループワークをやってみましょう　（個別 15 分、グループワーク 30 分）

事例の概略を理解したら、下記のワークシートを活用して、もしあなたが C 児の担任等だったとしたら、どのように早期支援に繋げるかを、ワークシートを埋めながら、考えてみましょう。ワークシートの横軸・縦軸は次のようになっています。

横軸

①入園前に踏み出した「早期支援を生かす」ためには？
②入園後の「C 児の成長を図る」ためには？
③他児の保護者との関係で悩む「母親を支援する」ためには？

縦軸

よかった点（担任や園の対応でよかったと思える内容等）
発展できる点（よかった点を踏まえ、さらによくできる支援の内容等）
課題となる点（担任や園の対応で課題と思える内容等）
今後の支援の工夫点（普段の姿から具体的に深められる支援の内容等）
※はじめに、自分の考えを書き込みます。（全項目が埋まらなくても可）
※書き込んだシートに基づいて、グループや園全体で情報交換します。

ワークシート 3　～疲弊する保護者に寄り添う～

ワーク 3	①早期支援を生かす	② C 児の成長を図る	③母親を支援する
よかった点			
発展できる点			
課題となる点			
今後の支援の工夫点			

事例理解と支援の視点

支援のはじめの一歩を繋げるには…

○園は、入園前に母親が C 児の子育てに困っていることを把握し、関係機関を紹介するなど支

援を開始していました。家族支援で大切とされる早期支援、即ち、支援のはじめの一歩を踏み出していたのです。

○しかし、関係機関に空きがなく連絡を待っていますとの母親からの連絡を最後に、互いの関わりが途絶えました。支援へのアプローチの仕方は一様ではありませんが、事例のような場合は、園が、もう少し踏み込んだ支援をすることが必要だったと考えられます。

○入園直後のＣ児のような困難や未知の出来事への戸惑いをもつ子供にとっては、早期の支援をすることで、よりよい成長に繋げられたかもしれないと考えられるからです。さらに、保護者自身が、園からの連絡やアドバイスを望み、待っていたとも考えられるからです。

みんなで読み合い、今後の指導の参考にしてください

疲弊する保護者に寄り添って…

○事例のＣ児は、２学期になって友達への他害行動が多くなりました。母親は、担任から相手の保護者と共にＣ児の園での出来事を聞くことが多くなりました。このような場合、相手の保護者に度々謝らなければならない母親の心中は容易に察することができるでしょう。出来事を伝える担任には、丁寧な説明と、Ｃ児の母親、相手の保護者双方から、それぞれの事情に応じた配慮が求められるのではないでしょうか。

○Ｃ児の母親に特化して考えてみましょう。母親は、家庭の事情に加えてＣ児のクラスの友達への新たな出来事が続く中で困惑や疲弊感を増しています。このような時に、担任が「毎日友達に危ないことをして困っています」「もっとご家庭でも愛情をもって接してください」と、園側の窮状や要望を訴えるのは母親をさらに追い詰めることになります。Ｃ児にとっても決してよい結果とはならないでしょう。

○この事例で、母親を支える上で必要なことは母親に寄り添った働き掛けではないでしょうか。「大丈夫ですよ。私たちも一緒に考えていきますから」「今は友達に関心が出てきているのです」「２学期になって自分でできることが増えて嬉しそうですよ」など、母親の気持ちに寄り添い、Ｃ児の成長を考え、見守っていくメッセージを伝えることも大切ではないでしょうか。

○その上で、園には、早期支援のために専門的な機関に繋げることも求められています。

ワークシート３　書き方の一例です。ワークシート記入後、参考にしてください

書き方例（参考）

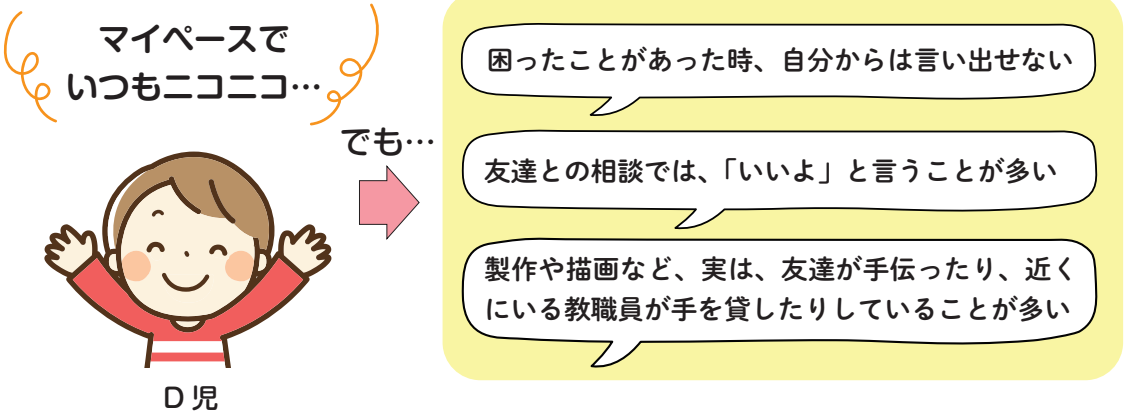
ワーク３	①早期支援を生かす	②Ｃ児の成長を図る	③母親を支援する
よかった点	入園前にＣ児の状態に気付いたこと	生活習慣・遊びに少しずつ変化がみられること	入園前の施設の紹介や入園後の園長からの声掛け
発展できる点	関係諸機関との連携をより密にすること	園が関係機関と直接的な関わりをもつこと	入園前の早期支援の好機をさらに生かすこと

課題となる点	連絡が途絶えたまま入園を迎えたこと	母親との連携のタイミングがかみ合わなかったこと	同左
今後の支援の工夫点	一人一人異なる保護者との関係の在り方	園、家庭、関係機関との三者で連携し成長を見守ること	自分からは積極的になれない母親の気持ちに寄り添った支援

（2）個に応じた関わりのヒントを提供する

本事例は、担任が、D児の姿や援助について繰り返し話をしたことで、父親が、家庭とは違うD児の姿、個に応じた関わりの大切さに気付いていったものです。ワークは特別に設定されていませんが、読んで、家族支援への理解を深めましょう。

また本事例は、担任と父親の会話で終わっています。この後の２人以外の家族や関係機関についても、どんなやりとりができるか考えを巡らせてみましょう。



・４歳児：担任から見ると、D児は、身支度や活動など、マイペースだが、一生懸命行っていた。積極的な性格ではないが、教職員の話を聞き、落ち着いて行動していると捉えていた。

・５歳児：担任は、製作や描画など活動の内容が少し難しくなったり、活動のペースが早くなったりすると、戸惑うD児の姿が気になった。どうしたらよいか分からないと動きが止まるが、D児の性格からか友達や担任に自然に声を掛けられ、助けられることが多い。自分から担任や友達に質問する姿はほとんど見られなかった。

・友達と相談する活動が増えると、意見を言わずに済ませたり、「それでいい」「いいよ」と友達に同意したりすることが多かった。担任が「D児はどう思う？」と投げ掛けるが、首をひねって黙ったままだった。

担任がD児の成長している面とともに、課題と思われる面を伝えると…

家では、生まれた下の子をかわいがっている。
「ほら、ちゃんと○○しないと」と親のほうが注意されることもある。

園では、何か緊張したり、遠慮したりしているのか。
家での姿と違うのがどうしてなのか、分からない。

D児父

担任

年長になると、少しずつ活動の内容やペースが上がっていく。
個々の力を発揮する場も増えてくる。

D児がしっかり力を出せるようにしていきたい。
家での様子についても、また情報をいただきたい。

・５歳児２学期になり、クラスでの製作や描画で、D児が泣く姿が見られる。「失敗した」「方法が分からない」「とにかく不安」など理由は様々である。
・巡回相談での専門家との話で、担任は、D児の空間認知の弱さに気付く。上下左右、自分の前、後ろなどが分かりづらいようである。また、物の名称もあやふやなのではないか、という話題が出た。
・担任は、クラス全体の活動やD児への関わりに、空間認知や物の名称を意識して取り込むことにした。

D児の様子はどうか。
家では相変わらず元気だが。

D児父

担任

園でも元気にやっている。

D児にとって分かりやすい指示の出し方や説明の仕方があるようなので、引き続き工夫していきたい。
そうすることで、自分から動けるようになってきた。

D児にはこう伝えると分かるとか、一人一人、指示の出され方によって分かりやすさが違うのか。家庭と集団では、いろいろ違うのかもしれない。

D児父

担任

D児は、物の名称がより分かったり、空間が認知できるようになったりすると、もっと力が出せそう。こうした効果的な援助を探るために、園では、専門家に聞いて学ぶこともある。

事例理解と支援の視点

伝えるためには焦らず、急がず…

集団生活であるがゆえに、家庭よりも園で、子供の課題が浮き彫りになるケースは多くあります。そうしたことを伝える際には、焦らず、急がず、保護者の理解に合わせて話しましょう。家庭で困っていることがない保護者にとっては、寝耳に水かもしれません。必要以上に心配したり、園への不信感を抱いたりすることに繋がらないように、子供自身が困っている場面があること、それに対して援助や環境を工夫していることを分かりやすく説明しましょう。

具体的な言葉は、家庭での関わりのヒントに…

事例の終わりでは、担任がD児の課題を前向きな言葉で具体的に父親に伝えています。事例はここまでですが、あなたはこの先をどのように想像しますか。

園で行っているような言葉掛けや環境構成の工夫などを「家庭でもやってみてください」と言うのは難しい話です。そのような時、例えば、事例にあった「空間認知」や「物の名称」など、その時の援助や環境構成の工夫のキーワードを会話に混ぜてみるのはどうでしょう。相手の印象に残りやすいかもしれません。

「家庭でもこうしてほしい」と担任が願う気持ちは分かります。しかし、まずは、園が子供に対して大切にしていること、今、必要だと思っていることを家族に知ってもらうことを第一歩にしましょう。

5．相談支援を考えよう

（1）分かち合うための関係づくりの難しさ

次の事例は、相談支援の難しさに直面する事例です。友達関係のトラブルが年中時の半ば頃から明らかになるE児を巡り、母親の悩みや戸惑いが特定の保護者に、次いで学級担任に向けられトラブルが多発するようになります。ワークは設定されていませんが、読んでみて、家族支援への理解を深めましょう。

○家族構成：母親、姉、祖母、本児の４人家族
○Ｅ児と母親、周りの人間関係等の経緯

入園前

あまり問題のなかった姉、家族

園には３歳年上の姉がかつて在園していた。姉は、生活習慣、友達関係、行動、遊びや課題への取り組み等、園での生活全般に関して、問題となることはほとんどなかった。当時は、母親だけでなく、父親や祖母も、一家で保育参観、行事などに参加し、家庭的な問題が表面化することはなかった。

３歳児

Ｅ児：特別な問題はなかった。姉が卒園児であることから、園の他の教職員もよく声を掛けていた。園生活にもすぐに馴染んだ。

母親：家庭内が不安定になり、母親が子供を引き取り別居に至る。家同士を行き来するなど仲良くしていた保護者を中傷する動きが出始める。園は、中傷を受けた保護者が退園を申し出たことで事情を知る。

園側が知らないうちに生じていた保護者同士のトラブル

園では、Ｅ児の入園前後に、家庭内で何らかの事情が生じていたことには気付かなかった。特定の保護者が中傷の対象になっていたことは、その保護者から退園の申し出があり、事情を聴く中で知った。退園を申し出た理由は、Ｅ児の母親から中傷を受けたことであった。園生活を楽しんでいる子供のためにも、園では、退園を回避する方向で、中傷の対象になった保護者を支援した。

４歳児

Ｅ児：特定の友達（Ｇ児）と仲良くしたい気持ちが強く、Ｇ児との気持ちのすれ違いからよくトラブルを起こすようになる。

母親：Ｅ児の母親は、担任から保育中のＥ児とＧ児のトラブルを聞き、Ｇ児の保護者に、降園時などに直接クレームを伝えるようになった。園ではＧ児の保護者から相談があり事情を知る。保育中に、Ｅ児Ｇ児間でけがを伴うトラブルが生じた時に、担任が双方の母親に事情を説明することがあり、それ以来、Ｅ児の母親のクレームが担任に向かうようになる。担任には辛い状況が続き、途中から園長が全面的に相談に応じるようになる。

子供同士のトラブルからの波及

E児がG児を一途に求めるようになる。G児には他に仲の良い友達がいて、E児の求めにいつも応じるわけではなかった。双方の思いの違いがあると、時々、E児が思い通りにならないG児に対して、傷を負わせることがあった。E児から事情を聞いた母親は、「G児が、うちの子を無視しているから」とG児の母親にクレームを付けるようになる。

E児の母親が募らせた担任への不満

E児とG児のトラブルが頻発し、担任は、G児がけがをした時には園で起きたことであるからと、双方の母親に事情を伝え謝罪していた。その内に、E児の母親の不満は担任に向けられるようになった。「先生は一方的」、「うちの子がそんな態度をとる訳がない」、「相手の悪いことは一切無視している」、「先生は信用できない」などかなり辛辣であった。

園としては、担任に代わり、園長が全面的にE児の母親に対応し、相談にのるようになった。そういう時は、落ち着いた態度で話ができた。

5歳児

E児：自分の思い通りにならない時、友達関係で気にいらないことがある時などに不安定になった。また、「一番」になることにこだわった。気持ちが不安定になると、声を上げる、ドアを勢いよく開け閉めする、廊下や階段を行き来するなどの姿が見られた。気持ちが収まると何事もなかったように落ち着き、活動などに元通り参加する。学級の遊びで病院ごっこが盛り上がると、看護服、聴診器を身に付けることで満足し、身に付けた格好で製作を楽しむなどの姿があった。

母親：母親に、園側も、E児に対してより適切な支援を知りたいからと外部の専門家の支援を受けることを承諾してもらう。園長が、外部の専門家が母親の子育て相談にも応じていると伝えるが、それを受けることはなかった。2学期になると穏やかな様子が見られるようになる。

母親の専門家の支援の受け入れ

E児の行動が収まらなかったため、園は、E児のよりよい支援の仕方を学びたいため、外部の専門家の支援を受けたい、と母親にもち掛けた。母親はすぐに承諾した。子育てや親自身の悩み事なども相談できると話したが「自分には必要ない」との返答であった。

○担任の関わりとＥ児の変化

年中児後半～年長児１学期に担任が心掛けたこと

・担任とのやり取りを増やす。
・会話や思いを伝える経験を積み重ねる。
・なぜ怒っているか、手を出したかなどを気持ちに寄り添いながら丁寧に聞く。
・Ｅ児の気持ちを汲み取る。

年長児２学期頃のＥ児の様子

・奇声や友達に手を出すことは少なくなる。
・集まっての活動時に保育室を出ていくことは少なくなったが、室内を歩き回る、廊下に出たり戻ったりがあった。
・周りの人の気持ちを引くかのような行動が増える。
　担任が言ったことの敢えて反対を言う、大きな声を出すなど
・徐々に自分の思いが伝えられるようになる。
　「一番になりたかった」「実習生と昼食を一緒にしたかった」など
・気持ちの整理がつくまでの時間が短くなる。
・保育室で過ごす時間が長くなる。

クラスの他児の様子

次のような様々な姿を見せる。
・Ｅ児の様子に驚きや恐怖を感じる。
・一緒に遊ぶのを嫌がる。
・担任がＥ児に関わる姿に注目している。
・Ｅ児の様子を心配する。
・気持ちを理解し「そっとしておこう」などと言う。
・「いいよ」と順番を譲るなどＥ児を受け入れて関わる。

事例理解と支援の視点

～分かち合うための理解と関係づくりに近付くために…

　この事例では、テーマに近付く道のりに険しいものがありました。相談支援の要である「分かち合うための理解と関係づくり」が十分に築かれたとは言えない状況でした。
　また、Ｅ児への対応と母親への対応との二重の困難が有り、最も必要とされる「園と家庭との連携」への道が半ば閉ざされた状況が続きました。

さらに、一家庭を退園の瀬戸際まで追い込んだ３歳児の出来事も、４歳児のG児の保護者との出来事も、園での対応が後追いになった感が否めませんでした。一方で、時系列に、E児の実態、家庭の状況、母親の態度などを見ていきますと、問題の根本ともいえることが浮かび上がりました。こうした事例では、母親への適切な支援こそが必要であったと考えられたのです。しかし、昨今では、本事例のように、母親自身、場合によっては父親自身が、園の力が及びにくい理由を抱えていることが少なくありません。

事例の園では、母親への適切な支援は園だけでは困難があると考えました。就学後も見据え、公的な関係機関の支援を要請するため準備していたと言います。一方で、担任にはかなり攻撃的な態度を見せていた母親が、園長に対しては柔軟に対応する姿がありました。以上のことを鑑みる時、本事例からは、相談支援～分かち合うための理解と関係づくり～で大切なこととして、以下の二つが挙げられます。

①　園内における役割分担や交代等の重要性

母親は、担任に対して「先生は一方的」、「うちの子がそんな態度をとる訳がない」などと頑なな態度を崩しませんでした。一方で、園長が対応した時には穏やかな様子を見せました。本事例は、その時々の実情に応じて園内での役割を適宜分担したり、交代したりし、よりよい相談支援に繋げることが重要であることを示唆していると考えられます。

園内の役割分担や交代等の例

担任⇔園長等管理職　　担当者・支援員⇔担任・同学年の担任
支援員・担当者⇔担任　　同学年の担任⇔管理職等　　管理職等⇔担任

②　関係機関からの支援の重要性

本事例からは、家庭や保護者が抱える背景に踏み込めない「現場の限界」も浮かび上がります。本事例のケースや明らかに保護者自身に何らかの要因が考えられる場合、下記のような外部の関係機関の支援を受けることも大切です。

連携・支援要請する関係機関例

児童発達支援センター　医療機関　民間療育施設　教育委員会　保健センター
保健所、児童相談所　特別支援学校　幼稚園・保育所・こども園・小学校等

（２）就学に向けた制度の活用

【ワーク４】就学に不安を抱える保護者と共に歩む　（グループワーク 50 ～ 60 分）

事例を読んで、ワークに取り組みましょう。就学に向けて不安を抱えていた保護者が、園や関係機関の就学に向けた支援について知り、それらを受けながらF児を支えていった事例です。

父方の祖母

・F児を心配。
・同じマンションの別部屋に住む。
・学習塾を薦める。
・母親には少々強めな態度。
・保育参加で来園。学級担任に
　F児は大丈夫か、と質問。

F児母

・F 児を主に送迎。
・就学に不安。友達関係、学習など。
・家庭での孤立感あり。

教育センター

・F児、母親を心配。
・巡回相談等で園との連携あり。退所後もF児の情報を園と共有あり。

子ども家庭支援センター

・自宅近隣からの泣き声通報で園に連絡。
・F児の情報を園と共有。

民間療育機関

F 児

・５歳児。４歳児の頃に比べて興味の幅が広がり、友達からの刺激を受けて意欲的に遊ぶようになった。
・日常生活で必要な言葉のやりとりはできるが、自分の気持ちや出来事の経過などを言葉に表すことはまだ難しい。
・遊びでも、学級での活動でも、嫌なことがあるとその場から走り去ったり、物に当たったりする。気持ちが落ち着くと、担任と1対1で話す中で、「〇〇が嫌だった」と振り返ることはできる。
・４歳児の半ば頃より公立の教育センターに月２回通い始めたが、５歳になってからはセンターを辞めて民間の療育機関に通っている。
・祖母の薦めにより、学習塾にも行き始めた。

F児父

・保育参加で来園。時折、送迎もする。
・F児が怒ったり、気持ちが昂ったりすると、接し方に戸惑う。

担任

・母親とは互いに話しやすい関係。
・祖母からも“困った母親”の話を聞く。

5歳児　1学期

個人面談にて

母親より

・教育センターは月２回で、あまり目立った成長が見られない。民間の療育機関に行くことにしたが、スケジュールが重なるので、教育センターを辞めた。
・Ｆ児の祖母が、就学に当たり、学習面を心配している。ひらがなや足し算を早く覚えさせた方がよいと言うので、塾に行き始めた。Ｆ児は、ゲーム的な感覚で楽しんでいるが、家でもやらせなければいけないドリルなどがあって、自分は負担に思う。
・小学校は、今の住所のまま通うとなると、Ｆ児が好きな友達と離れてしまうし、同じ園から行く子が１人だけなので心配。トラブルを起こしたり、いじめられたりしないか。好きな友達と一緒の学校になるように、引っ越した方がよいかとも思う。

担任より

・Ｆ児に必要な支援が継続して受けられるとよい。民間の療育機関とも、連携を図っていきたい。教育センターは小学生も管轄内なので、繋がりを保っておくとよいかもしれない。
・塾は、楽しんでいるとのことで安心した。母親の負担が増えないように、家で行うことの分量や回数を調整するのはどうか。
・小学校では、新しい友達もできると思う。就学までに、友達との関わりも含めて、必要な援助をしていきたい。

降園時の話にて

母親より

・毎日ではないが、日中や夜間にトイレに間に合わないことが増えた。言いたくないようで黙っているから、気付いた時に自分が余計に怒ってしまう。
・「小学校に行くのだから」「１年生になるのだから」と言い過ぎているのかもしれない。

担任より

・就学までにはまだ数カ月ある。数カ月もあると思って、園生活を名残惜しみながら、一緒にやっていきましょう。

5歳児　2学期

希望者に応じて実施した個人面談にて

担任より

・５歳児としての遊びや活動を通してＦ児の成長がたくさん見られている。Ｆ児に合わせた援助の工夫をすることで、Ｆ児が気持ちを乱したり困ったりすることが少なくなり、力を出して取り組めることが増えてきている。
・小学校にも、Ｆ児の成長の過程とともに、効果的であった援助の工夫を伝えていきたい。また、保護者の願いも伝えてほしいと思う。就学支援シートを活用したいが、どうか。

母親より

・こういうものがあるのか。F 児について知ってもらうのはよいと思う。民間の療育機関にも何か書いてもらえるとよい。

降園時の話にて

母親より

・就学支援シートを活用することについて、父親が渋っている。小学校側に最初から「この子は…」という目で見られるのではないか、と言っている。

担任より

・必要があれば、父親にも園から説明する。就学支援シートがあることで、よい意味でF児への理解が深まり、小学校生活を送りやすくなると思う。就学支援シートが、もしなかったとしても、園から小学校への申し送りはするが、あった方が確実に伝わりやすい。

数日後

母親より

・父親も了承した。記入の仕方が不安なので、下書きをしてくる。（その後、数日かけて書き方や内容について担任と相談し、清書する。担任も記述したものを見せ、母親の了承を得る）

5 歳児　3 学期

降園時の話にて

母親より

・小学校になったら、日頃の相談を誰にすればよいか。小学校の教員とは毎日顔を合わせるわけではないし、療育機関は気軽に電話を掛けられる感じではない。

担任より

・内容によるが、小学校の教員も聞いてくれるだろうし、教育センターに相談してもよい。以前通っていた時の情報が残されているだろう。教育センターは、小学生も管轄内であり、相談できる。

・困ったら、園に電話をしてもよい。

母親より

・相談できるところが続いてあって、よかった。教育センターを念頭においておく。

・F 児は、小学校に行くのを楽しみにしているので、自分も支えていきたい。就学時健診で訪れた小学校を気に入っているようだ。引っ越しはしないでおこうと思う。

事例理解と支援の視点

就学の不安は、子供にも保護者にも家族にも…

年長に進級すると、次に気になるのは、就学です。ドキドキするのは、子供だけではありません。事例のように、保護者も家族も、不安や心配を抱える場合があります。何に対して不安や心配をしているのか、聞き取っていくことは大切です。噂や誤った情報がもととなっているのなら、正しい情報を伝えていく必要があります。理由が漠然としている場合には、気持ちを十分に受け止めながら、就学までの間、年長組として、意欲的に、楽しく過ごすことが小学校生活に繋がっていくことを再確認し、園生活を親子、家族で楽しめるようにしていきましょう。

制度の有効活用を…

就学にあたっては、事例にあった就学支援シートのほかに、就学相談や個別の教育支援計画など、小学校生活へのスムーズな移行に有効な制度や手立てがあります。子供の実態や状況に合わせて、何がどう活用できるのか、教職員自身の理解を深めておきましょう。

教職員が様々な制度について、意義や手順、方法をしっかりと説明できるようにしておくことは、就学前の保護者の安心感や信頼感に繋がります。

小学校との円滑な接続については、第２章組織体制、個別の教育支援計画については、第３章指導・支援も参照してください。

関係機関との情報共有を…

事例（図）では、家族を取り巻く関係機関として、民間療育機関や教育センター、子ども家庭支援センターなどが出てきています。就学に向けて、必要な情報が交換、共有されることで、家族支援が手厚くなります。関係機関との連携の窓口は、園の管理職が担うことも多いでしょう。園内の報告、連絡、相談、確認を漏れなく行いましょう。関係機関との連携については、本章の「６．関係機関との連携について考えよう」を参照してください。

グループワークを進めてみよう　（グループワーク　50 分～ 60 分）

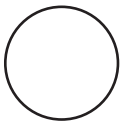
事例は、担任と母親の話が中心に書かれています。
この 2 人以外の家族や関係機関についても考えを巡らせてみましょう。

用意する物

ワークシート 4、鉛筆、色ペン or 色鉛筆〈数色〉、ラインマーカー

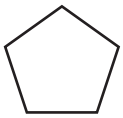
ワーク 4 の手順　（事例を読んでから始めましょう）

① 事例の内容をもとに、シートに次のことを書き込みましょう。（15 ～ 20 分）



F 児のハッピーとは何か。
「ハッピー」とは、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ちと考える。

には、子供を取り巻く家族の続柄。（母親、父親など）
必要に応じて、 を増やしても構いません。



には、家族を取り巻く関係機関名。園については、園内の役職。
必要に応じて、 を増やしても構いません。

② 家族 に対して、関係機関側ができること、可能な支援を □ の中に書きましょう。
枠の色を関係機関ごとに変えてもよいでしょう。

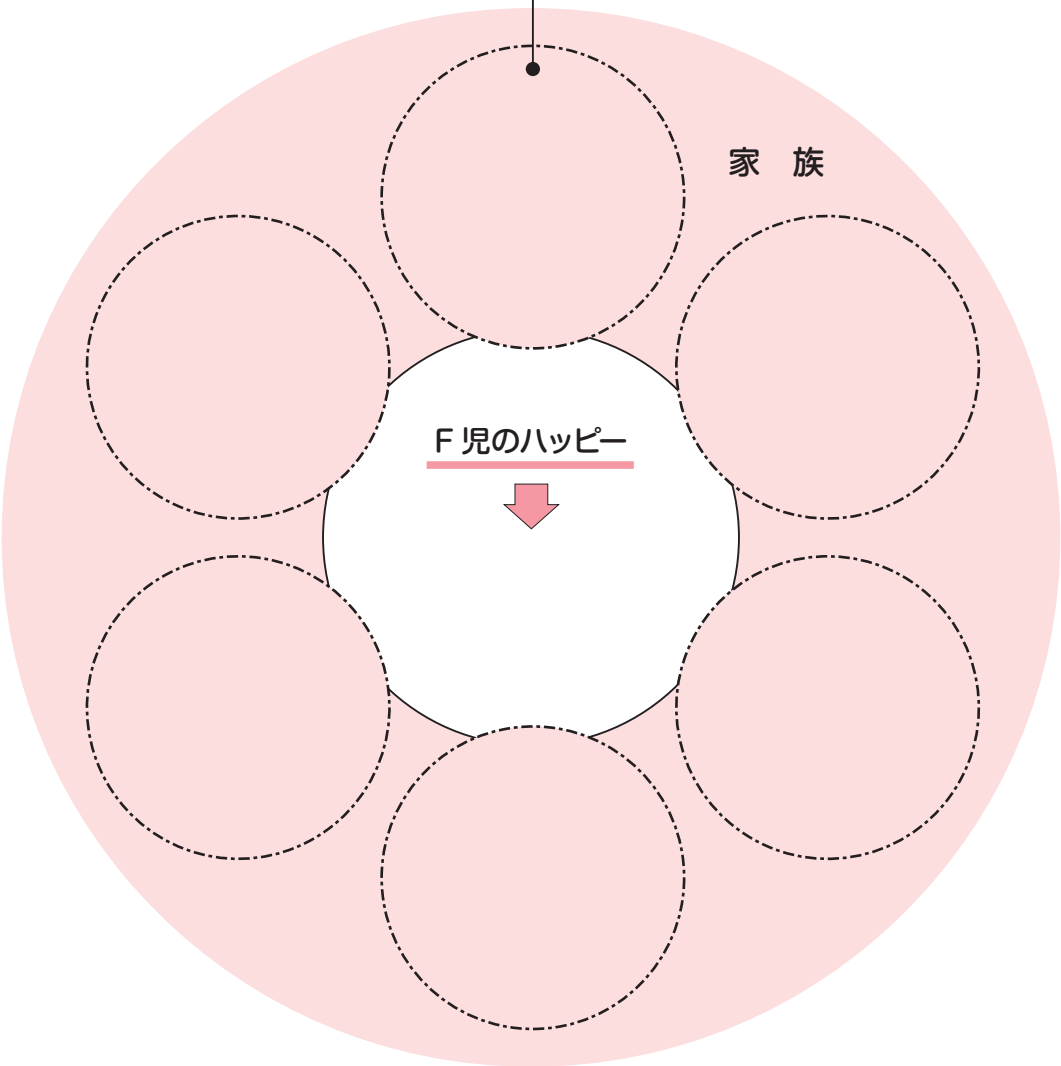
③ 記入したことを発表し合い、共感したこと、疑問に思ったこと、新たに気付いたことを話し合いましょう（20 ～ 30 分）

④ まとめとして、自分の園、自分のクラスの家族支援に生かせそうな部分にラインマーカーを引き（2 ～ 3 分）、発表し合いましょう。（7 ～ 8 分）

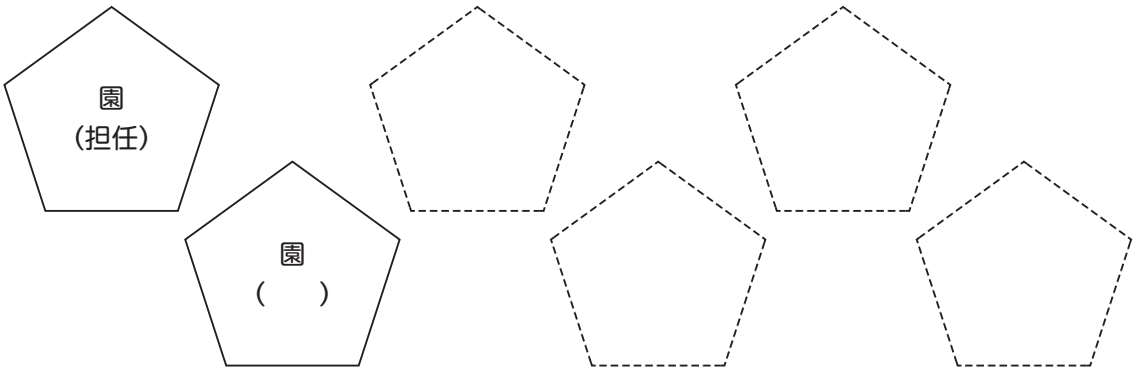
ワークシート４　～就学の不安の受け止めと制度の活用～

関係機関（　　）ができる支援

「ハッピー」は、子供自身の願いや希望のほか、それを踏まえて、教職員や保護者が子供に期待する育ち



家族を取り巻く関係機関



6．関係機関との連携について考えよう

ここでは、特別な支援が必要な未就学児とその保護者が利用可能な外部の関係機関について解説します。教職員が関係機関の役割を知り、地域にある関係機関の利用や連携に関する具体的な情報を得ること、保護者へ必要な情報を提供することを目指します。

（1）主な関係機関と役割

①　保健センター

保健センターは、保健師による家庭訪問、乳幼児健康診査などを行います。母親の産後うつの予防や乳幼児健康診査による障害の早期発見の役割を担っています。

発達支援が必要な保護者に対しては、保健師が早期支援に向けた働き掛けをします。例えば、障害の可能性がある場合には、児童発達支援センターや医療機関などの専門機関を紹介し、早期支援に繋げます。また、経過観察の場合には、親子発達教室などの健診事後教室を紹介し、集団の遊びを通した発達支援と療育専門職による相談・支援を行います。この親子教室は、保護者同士の交流の場にもなっています。

②　児童発達支援センター

児童発達支援センターでは、特別な支援が必要な未就学児を対象に、通所による療育・外来療育・相談支援を行っています。ここでは、日常生活に必要な基本的動作を指導し、知識技能を与え、集団生活への適応訓練などを行います。医療的ケアが必要な子供の治療を含む療育は、医療型児童発達支援センターで行います。

また、幼稚園、保育所、認定こども園へ発達や療育の専門家が訪問する巡回相談支援や保育所等訪問支援も行われています。

③　子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターは、子供と家庭に関する総合窓口です。虐待の事実確認や児童相談所への連絡、相談支援、ショートステイの提供などを行います。

④　児童相談所

児童相談所は、児童福祉法に基づいて設置される行政機関です。18 歳未満の子供のあらゆる問題について相談に応じ、援助や指導を行います。

⑤　その他　－子育て支援の場

地域の児童館、子育て広場などの親子が集う場もまた、身近な相談窓口の役割を担っています。これらの機関の職員の多くは、子供の発達・心理、保育・教育に関する知識や経験があったり、元教員や保育士であったりします。そのため、障害の診断はないけれども、日々の育児の中で気になった子供の様子や発達のこと、子育ての悩みなどを、子供を安全に遊ばせながら、指導員に相談することができるでしょう。指導員に話すことですっきりして、生き生きとした表情で帰っていく保護者もいれば、指導員の勧めにより専門機関に相談する気持ちになって家路につく保護者もいるでしょう。

（2）地域資源の活用

【ワーク5】地域の資源マップ作り（グループワーク 40 ～ 60 分、園全体 15 ～ 20 分）

ワーク5では、まず地域の関係機関を調べて地域資源マップを作り、次に関係機関との連携について考えます。

ワーク5の手順

①　研修前の準備（園内研修進行役）

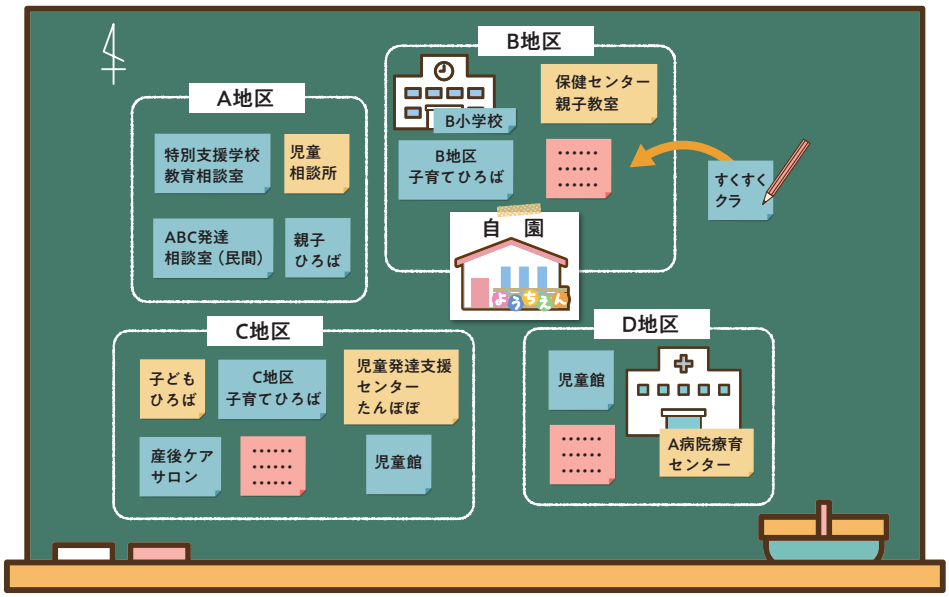
（ア）マップの作り方は、園の状況に合わせて次の方法1～方法3のいずれかを選び、必要な材料を準備しましょう。

方法1．模造紙や黒板などに、各自調べた関係機関を書いた付箋を貼り、マップを作る。（下図を参照）

方法2．模造紙の半分（A3用紙を2枚繋げた程度）の大きさの用紙に、直接マジックなどで関係機関を記してマップを完成させる。

方法3．地域の地図をあらかじめ拡大コピーしておき、関係機関に印を付けられるように準備する。

方法1の付箋を使用した地域の資源マップの例



（イ）参加者が関係機関をどのように調べるか、事前に考えておきましょう。

例：各自スマートフォンを使う、グループごとに園のパソコンを使う、役所から事前に必要なパンフレットや冊子を取り寄せておく等。

（ウ）グループを作って、席順を決めておきましょう。

② 研修前半：マップ作り

（ア）研修担当の教職員は選んだ方法を説明して、マップ作りを進めましょう。
マップは自園を中心に描くとよいでしょう。

（イ）関係機関の名前だけでなく、どのような支援があるか、園の親子が利用できるか、など記載するとよいでしょう。

③ 研修後半：関係機関との連携を考える

調べた関係機関を次のように分類して、連携について考えてみましょう。

（ア）現在、園児や家族が利用している機関はありますか。
➡これらの機関について知っている教職員は、他の教職員へ利用方法や連携方法を紹介しましょう。

（イ）現在、園児や家族が利用していない機関はどれですか。
利用のない機関のうち、園の在籍児や保護者にとって、利用が必要、または今後利用してもらいたい機関を選びます。
➡保護者へどのように紹介したらよいでしょうか。具体的な方法を考えましょう。
➡関係機関との連携方法を調べたり、すでに知っている情報は共有したりして下さい。

（ウ）ワークシート〔関係機関との連携を考える〕に記入、または、グループワークの発表をします。

ワークシート〔関係機関との連携を考える〕―（記入例）

関係機関名	利用	園との連携の実態と今後の検討課題
○○医療センター	☑あり □なし	保護者が園の連絡帳に主治医の助言を書いてくれる。園の対応で必要なことを保護者から主治医に聞いてきてもらう。 提案：現状維持
△△発達支援センター	☑あり □なし	発達支援センターの担当者が定期的に園長会に出席して情報共有しているが、学級担任との連携は少ない。 提案：学級担任が直接連携できるようにする
	□あり □なし	

ワークシート５　～関係機関との連携を考える～

関係機関名	利用	園との連携の実態と今後の検討課題
	□あり □なし	
	□あり □なし	
	□あり □なし	
	□あり □なし	
	□あり □なし	
	□あり □なし	

（３）支援の必要な親子への情報提供

園では、特別な支援に関する情報をどのように提供していますか。保護者の中には、子供の育てにくさを感じているものの、教職員への相談は気が進まず、一人悩んでいる場合もあります。家族支援においては、このような保護者に対し、子育てや子供の行動を理解するヒントを得られるような子育て情報や、関連機関の情報を提供することが大切です。

【ワーク６】園内での情報提供の工夫　（グループワーク 30 ～ 45 分、園全体 10 分）

ここでは、支援の必要な親子への情報提供について考えます。

ワークシート〔支援の必要な親子に情報を提供する〕を使って、グループワークをしましょう。

地域の関係機関や相談窓口の情報を得られるよう、園内の環境を整えるにはどうしたらよいでしょうか。支援の必要な親子へ適切な情報を提供する上で、保護者が主体的に情報を得られるような環境を準備することがポイントです。

ワーク６の手順

このワークは、研修参加者数の多少によりグループに分かれて行うことも、全体で行うこともできます。どちらかに決めて行ってください。また、必要に応じ、関連施設一覧などを用意したり、関連機関を調べる時間を事前か研修時に設けたりしてもよいでしょう。

①　現在の情報提供を記入する

情報提供には、掲示、チラシ配布、Web 連絡、園だよりへの記載、イベント開催などの方法があります。例えば、掲示の場合、どこにどのように掲示してあるか、いくつ掲示してあるか、必要な情報は網羅できているか、など現状を把握します。

②　現在の情報提供の評価をする

現在の個々の情報提供は、支援が必要な保護者への十分な情報提供となっているか評価しましょう。例えば、チラシの置き場所の場合、周囲からの目を気にする保護者にとってはどうか、あるいは乳児を連れて送迎する保護者にとってはどうかなど、様々なケースを想定して、評価しましょう。

③　改善策を考える

十分でない場合は、もっとよいアイディアをグループで出し合いましょう。

④　全体で情報共有し、実行するためのプランを立てる

改善策をいつまでに、だれが、どのように実行するかを決めましょう。

ワークシート６　～支援の必要な親子に情報を提供する～

1．現状（支援の必要な子供と保護者への情報提供の内容、周知の方法、タイミングなど）
2．評価（支援が必要な保護者にとって十分な情報提供の内容や方法となっているか、など）
3．改善策（何をどのように改善するのか。新たなアイディアや工夫など）
4．実行プラン（改善策をいつまでに、だれが、どのように実行するか、など）

関係機関を調べる方法：自治体ホームページの関連施設一覧、地域の子育て冊子やチラシなどに掲載があります。

検索キーワードの例：「地域名（スペース）児童発達支援事業」、他に、障害児福祉施設、発達相談、子育て支援、などでも検索してみましょう。

7.「家族支援」のまとめ

ここまでワークを通して、家族支援について学んできましたが、いかがでしたか。今一度学んだことを振り返ってみましょう。該当する□にチェックを付けてみましょう。

□ 本章を活用して園内研修を進める中で、あなたの園が抱える「家族支援」という重要な営みへの基本的な理解は深められましたか。

□ 地域の関係諸機関の所在や役割を知り、連携を進めたり、深めたりすることに繋がりましたか。

□ 保護者の悩みや苦悩などに寄り添いながら、家族と共に「子供の育ちの保障」について、一歩でも二歩でも先へ進むことはできましたか。

□ 本冊子にあるワークや事例は、あなたの園の「家族支援」における悩みや困難を解決する糸口として活用できましたか。

「家族支援」に限らず、園内研修を進めるに当たって大切なことは、安心して参加できる場作りです。園内研修の企画・担当者をはじめ、職階や勤務年数、職種の違いにかかわらず、全ての参加者が対等な立場で語り合える土壌が醸成されることを願っています。

「家族支援」には「子供の保育」という枠を超えた所に諸問題を抱えることが少なくありません。そのため教職員間の密な繋がりとチームワークは欠かせません。教職員の協力体制のもとで家族支援に取り組んでいくことを大切にしていきましょう。

研修を進めるために　園内研修進行のポイント

ワーク１　ワーク２

・事前に、各自で事例を読んでおくように伝えましょう。ワーク１では、事例の前半部分のみを読んでおくようにしましょう。
・ワークシートは、必要に応じてコピーしてください。
・ワークシートは、記入例にとらわれ過ぎず、各自が考えを整理するために使うものと捉えましょう。事例には書かれていない部分を想像したり、日頃自分が気になっていて事例と重なることを題材にしたりして記入し、話し合いに含めてもよいでしょう。
・ワーク１では事例の後半部分と「事例理解と支援の視点」を、ワーク２では「事例理解と支援の視点」を読む時間が、話し合いの途中に設定されています。ワークシート記入の様子や話し合いの状況に応じて、時間配分や順序を変更しても構いません。正解を見付けるワークではありませんので、様々な意見を出し合うことで各自の視野や考え方が広がるように進めていきましょう。

ワーク３

・事前に、各自で事例を読んでおくように伝えましょう。
・ワークシートは、コピーして人数分を用意しましょう。その際、書き込みやすいように拡大するのもよいでしょう。
・情報交換時には、事例内容に限定することなく、ご自分や園の例など、事例と重複する事柄も交えて話題にすることもよいでしょう。
・後尾に、ワークシートの「書き方例」を提示しています。「書き方例」を先に読んでしまうと、ご自分の考えが参考の文章例に影響されることがあります。情報交換時に活用するなど、ワークシート記入後に参考にするとよいでしょう。

ワーク４

・事前に、各自で事例と「事例理解と支援の視点」を読んでおくように伝えましょう。
・研修の参加者が、関係機関についての情報や知識をどの程度もっているか、把握しておくとよいでしょう。場合によっては、ワーク４に取り組む前に、第４章の関連部分を参加者で読み合ったり、関係機関についての情報を伝達、共有したりする時間をとりましょう。ワーク５、ワーク６から先に研修を行うのもよいでしょう。
・ワークシートは、必要に応じてコピーしてください。
・ワークシートは、書く分量が少なくても構いません。各自が考えを整理するために使うものと捉えましょう。事例には書かれていない部分を想像したり、日頃自分が気になっていて事例と重なることを題材にしたりして記入し、話し合いに含めてもよいでしょう。

ワーク５

・方法：方法２は、グループ毎に地域を割り当てて作成し、最後に全ての用紙を統合しても、各グループが全体マップを作成し、最後にグループ間で見比べてもよいです。方法３は、研修時間が短い場合には時間の節約になります。

・**所要時間**：地域によって関係機関の数に違いがあります。地域に多数の関係機関がある園や広域の園児が通う園の場合、情報収集に時間がかかります。時間が限られている場合は、地域を限定する、対象児を絞るなどの工夫をしましょう。
・**ワークシート**：記入例にとらわれ過ぎず、各自が考えを整理するために使うものと捉えましょう。ワークシートを利用せず、ノート等に記載することも可能です。
・**参加者の準備**：事前に６（１）主な関係機関と役割を各自読むよう伝えましょう。

ワーク６

・ワーク５を行わず、ワーク６のみ実施の場合：必要に応じ、関連機関を調べる時間を事前か研修時に設けるか、関連施設一覧などを準備するとよいでしょう。
・**ワークシート**：記入例にとらわれ過ぎず、各自が考えを整理するために使うものと捉えましょう。ワークシートを利用せず、ノート等に記載することも可能です。
・**参加者の準備**：事前に６（１）主な関係機関と役割を各自読むよう伝えましょう。

2022（令和 4）年度　文部科学省委託研究
「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」
特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究
ーワークを中心にして学び合い・深め合う園内研修教材ー

研究代表

一般社団法人　保育教諭養成課程研究会　理事長　無藤　隆（白梅学園大学 名誉教授）

■プロジェクトリーダー　神長美津子（大阪総合保育大学 特任教授）
島田由紀子（國學院大學 教授）

■全体コーディネート　山下　文一（高知学園短期大学 教授）
大澤　洋美（東京成徳短期大学 教授）
桶田ゆかり（十文字学園女子大学 教授）
望月　文代（育英大学 准教授）

■教材開発

「基礎理論」

・新山　裕之（港区立青南幼稚園 園長）
・内田　千春（東洋大学 教授）
・久保山茂樹（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員）
・滝口　圭子（金沢大学 教授）
・廣井　雄一（國學院大學 准教授）
・広瀬　由紀（共立女子大学 准教授）

「組織体制」

・安達　　譲（せんりひじり幼稚園 園長）
・岩城眞佐子（國學院大學 客員教授）
・黒川　貴広（栃木県幼児教育センター グループリーダー）
・河野由紀子（品川区立御殿山幼稚園 園長）
・髙橋　幸子（國學院大學 教授）

「指導・支援」

・足立　祐子（台東区立竹町幼稚園 園長）
・大澤　洋美（東京成徳短期大学 教授）
・親泊絵里子（品川区立台場幼稚園 副園長）
・松井　剛太（香川大学 准教授）
・守　　巧（こども教育宝仙大学 教授）

「家族支援」

・遠藤　　愛（星美学園短期大学 准教授）
・酒井　幸子（武蔵野短期大学 客員教授）
・野澤　純子（國學院大學 教授）
・矢澤　弘美（文京区立後楽幼稚園 主任教諭）

■実態調査

・若尾　良徳（日本体育大学 教授）
・望月　文代（育英大学 准教授）
・大佐古紀雄（育英短期大学 教授）
・駒　久美子（千葉大学 准教授）
・島田由紀子（國學院大學 教授）
・恒川　　丹（田園調布学園大学 助教）
・結城　孝治（國學院大學 教授）

（敬称略・五十音順）所属・役職は令和５年３月１日現在

■研究協力園一覧

市川市立大洲幼稚園
学校法人札幌豊学園札幌ゆたか幼稚園
学校法人新栄学園認定こども園金沢白百合幼稚園
学校法人聖公会聖十字学園花園幼稚園
学校法人聖心学園サンタ・セシリア幼稚園
学校法人仁平学園認定こども園黒羽幼稚園
学校法人ひまわり学園認定こども園ひまわり幼稚園
学校法人まゆみ学園まゆみ幼稚園
学校法人みはる学園みはる幼稚園
学校法人武蔵野学院武蔵野短期大学附属幼稚園
札幌市立はまなす幼稚園
品川区立平塚幼稚園
社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育幼稚園
宗教法人日本キリスト教団片瀬教会附属片瀬のぞみ幼稚園
台東区立清島幼稚園
台東区立金竜幼稚園
中央区立豊海幼稚園
那珂川町立なかのこ認定こども園（令和４年３月 31 日閉園）
中野区立かみさぎ幼稚園
練馬区立北大泉幼稚園
文京区立小日向台町幼稚園

謝　辞

本書は、令和２年度文部科学省「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究）」の委託を受け、一般社団法人　保育教諭養成課程研究会が３年間に渡り、調査研究を行った成果です。

１年目には、幼稚園及び幼保連携型認定こども園における特別な配慮を必要とする幼児等に関する園内研修の実態やニーズや課題について把握するために、全国から５つの県（宮城県、広島県、三重県、千葉県、徳島県）の国立・公立、私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園を対象に質問紙調査を実施しました。その調査結果を踏まえ、特別支援教育について学ぶための園内研修テキストの素案として、基礎理論編、組織体制編、指導・支援編、家族支援編の４冊を作成しました。２年目には、21 園の幼稚園及び幼保連携型認定こども園にご協力いただき、実際に４冊のテキストを用いた園内研修を行っていただきました。園内研修終了後には質問紙調査とインタビュー調査を実施し、テキスト改善のための検討を始めました。こうして３年目となる令和４年度は、これまでの調査研究の結果や寄せられたご意見をもとに、各研究員が事務局とともに検討しながら加筆・修正し４章からなる一冊にまとめました。本書が、保育の場における特別支援教育に関する様々な問題や迷いを解決する手掛かりとなる一冊になれば幸いです。

本書の作成にあたり、調査や園内研修の実施にご協力いただいた多くの幼稚園教諭及び保育教諭、職員の皆様に心より感謝申し上げます。

一般社団法人　保育教諭養成課程研究会　島田　由紀子

令和４年度　文部科学省委託研究
「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」
特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究

特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実
―ワークを中心にして学び合い・深め合う園内研修教材―

一般社団法人　保育教諭養成課程研究会　理事長　無藤 隆

《事務局》
〒 780-0955　高知県高知市旭天神町 292-26
高知学園短期大学　幼児保育学科
山下文一 研究室

本報告書は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として〈一般社団法人　保育教諭養成課程研究会〉が成果をまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等は文部科学省の承認手続きが必要です。